

# 分布調査報告書(15)

1988

山形県教育委員会

# 分布調査報告書(15)

昭和63年度以降農林・土木事業他関係遺跡

B 調 査 実 施 遺 跡

C 調 査 実 施 遺 跡

昭和63年3月

山形県教育委員会

## 序

本報告書は、山形県教育委員会が昭和62年度に実施した、遺跡詳細分布調査の結果をまとめたものです。

近年の開発事業の進展に伴い、地下に埋もれた埋蔵文化財との関わりが増加する傾向にありますが、埋蔵文化財は本来土地に密着したものでありますから、保護に当たっては、国民がその特性を十分認識し、周到な配慮をもって対処することが望まれています。

山形県教育委員会では、「心広くたくましい県民の育成」と地域文化の環境づくりという立場から、これらの間の調整をはかり、今後も埋蔵文化財の適切な保護と活用のため努力を続けていく所存です。

本調査にご協力いただきました関係各位、地元の方々に感謝申し上げるとともに、本書が埋蔵文化財に対するおおかたの理解の一助となれば幸いです。

昭和63年3月

山形県教育委員会

教育長 小野 孝

## 例　　言

- 1 本書は、昭和62年度に山形県教育委員会が国庫補助を得て実施した、昭和62年度及び昭和63年度以降農林・土木事業他、埋蔵文化財包蔵地基礎調査に関する遺跡詳細分布調査報告書である。
- 2 調査は、山形県教育庁文化課の佐々木洋治(埋蔵文化財主査)・佐藤庄一(埋蔵文化財係長)・野尻 優(主任技師)・佐藤正俊(主任技師)・名和達朗(技師)・渋谷孝雄(技師)・阿部明彦(技師)・長橋 至(技師)・安部 実(技師)・黒坂雅人(嘱託)・伊藤邦弘(嘱託)の11名が担当した。
- 3 本報告書の執筆は、佐藤庄一・野尻 優・名和達朗・渋谷孝雄・阿部明彦・長橋 至・安部 実・黒坂雅人・伊藤邦弘がそれぞれ分担し、また、挿図・図版作成等については、渡辺清子・木村博子・大久保良重・前田和子・西村純子・武田一子・鈴木良子・松本時子・徳正宜子がこれを補助した。
- 4 本書の編集は、名和達朗・阿部明彦が担当し、全体については佐々木洋治が総括した。
- 5 調査の対象となった遺跡及び事業名は、第Ⅰ章でその事業名・内容を記載し、個々についてでは第Ⅱ章に記載した。
- 6 挿図の縮尺についてはスケールで示し、位置図は2万5千及び5万分の1縮尺、方位は磁北に合わせた。遺跡地名表の番号は、位置図の番号に一致する。挿図・図版中の遺物は、%・%を原則とした。挿図及び文中の記号は、●・T P・B T P：試掘地点、●：遺構検出・遺物出土地点、R P・P：土器、S B：建物跡、E B：建物跡柱穴、S E：井戸跡、S K：土坑、E P：ピットを示す。  
なお、遺跡概要図中の実線及び破線(推定線)は、遺跡範囲を表示する。
- 7 調査にあたっては、各関係機関、各市町村教育委員会、地元関係者のご協力を得た。ここに、感謝申し上げる。

# 目 次

## I 調査の方法と経緯

1 調査の方法	1
2 調査に至るまで	1
3 調査の経過	2

## II 調査の概要

1 昭和63年度以降農林・土木事業他関係遺跡地名表	
(1) 県営圃場整備事業関係遺跡	6
(2) 国営農地開発事業関係遺跡	6
(3) 県営かんがい排水事業関係遺跡	8
(4) 水田農業確立対策特別事業関係遺跡	8
(5) 農免農道整備事業関係遺跡	8
(6) 開拓地整備事業・焼野地区関係遺跡	8
(7) 公害防除特別土地改良事業・吉野川流域地区関係遺跡	8
(8) 県営新堀等二トンネル改修工事関係遺跡	10
(9) 国道改良工事関係遺跡	10
(10) 県道改良工事関係遺跡	10
(11) 街路事業関係遺跡	10
(12) 中小河川局部改良事業・葵野川地区関係遺跡	12
(13) 庄内広域水道用水供給事業関係遺跡	12
(14) 県営新野川第一発電計画関係遺跡	12
(15) 埋蔵文化財包蔵地基礎調査関係遺跡	12
2 試掘調査実施遺跡	
(1) 前田遺跡	36
(2) 大樋遺跡	38
(3) 下長橋遺跡	40
(4) 浮橋遺跡・水尻遺跡	42
(5) 小深田遺跡	44
(6) 仁田田遺跡	46
(7) 横代遺跡	48

( 8 ) 熊野田遺跡	50
( 9 ) 手藏田 3 遺跡	52
(10) 大槻新田遺跡	54
(11) 手藏田 4 遺跡	56
(12) 手藏田 5 遺跡(手藏田 5・8 遺跡)	58
(13) 手藏田 6 遺跡	60
(14) 手藏田 9 遺跡	62
(15) 本川遺跡	64
(16) 助作遺跡	66
(17) 山田遺跡	68
(18) 早房 A 遺跡	70
(19) 柳沢条里遺跡	72
(20) 赤岩遺跡	74
(21) 寝鹿遺跡	76
<b>3 C調査実施遺跡</b>	
( 1 ) 前田遺跡	78
( 2 ) 下長橋遺跡	83
( 3 ) 水尻遺跡	99
( 4 ) 本川遺跡	112
<b>III まとめ</b>	125
<b>付表 - 1 昭和62年度分布調査遺跡一覧</b>	3
<b>付表 - 2 調査工程表</b>	5

## 挿図目次

第1図 農林・土木事業他関係遺跡位置図(1).....	14
第2図 農林・土木事業他関係遺跡位置図(2).....	15
第3図 農林・土木事業他関係遺跡位置図(3).....	16
第4図 農林・土木事業他関係遺跡位置図(4).....	17
第5図 農林・土木事業他関係遺跡位置図(5).....	18
第6図 農林・土木事業他関係遺跡位置図(6).....	19
第7図 農林・土木事業他関係遺跡位置図(7).....	20
第8図 農林・土木事業他関係遺跡位置図(8).....	21
第9図 農林・土木事業他関係遺跡位置図(9).....	22
第10図 農林・土木事業他関係遺跡位置図(10).....	23
第11図 農林・土木事業他関係遺跡位置図(11).....	24
第12図 農林・土木事業他関係遺跡位置図(12).....	25
第13図 農林・土木事業他関係遺跡位置図(13).....	26
第14図 農林・土木事業他関係遺跡位置図(14).....	27
第15図 前田遺跡概要図 .....	36
第16図 大堀遺跡概要図 .....	38
第17図 下長橋遺跡概要図 .....	40
第18図 浮橋遺跡・水尻遺跡概要図 .....	42
第19図 小深田遺跡概要図 .....	44
第20図 仁田田遺跡概要図 .....	46
第21図 橫代遺跡概要図 .....	48
第22図 熊野田遺跡概要図 .....	50
第23図 手藏田3遺跡概要図 .....	52
第24図 大規新田遺跡概要図 .....	54
第25図 手藏田4遺跡概要図 .....	56
第26図 手藏田5遺跡(手藏田5・8遺跡)概要図 .....	58
第27図 手藏田6遺跡概要図 .....	60
第28図 手藏田9遺跡概要図 .....	62
第29図 本川遺跡概要図 .....	64

第30図 助作遺跡概要図	66
第31図 山田遺跡概要図	68
第32図 早房A遺跡概要図	70
第33図 柳沢条里遺跡概要図	72
第34図 赤岩遺跡概要図	74
第35図 寝鹿遺跡概要図	76
第36図 前田遺跡位置図	78
第37図 前田遺跡概要図	79
第38図 前田遺跡Aトレンチ構造配置図	80
第39図 下長橋遺跡概要図	83
第40図 下長橋遺跡グリッド配置図	84
第41図 下長橋遺跡土層柱状図	85
第42図 下長橋遺跡構造配置図	86
第43図 下長橋遺跡R P 1・2・6、R Q 12出土状況	91
第44図 下長橋遺跡出土遺物（1）	92
第45図 下長橋遺跡出土遺物（2）	93
第46図 下長橋遺跡出土遺物（3）	94
第47図 水尻遺跡位置図	99
第48図 水尻遺跡概要図	100
第49図 水尻遺跡南トレンチ構造配置図	101
第50図 水尻北トレンチ構造配置図	103
第51図 水尻遺跡構造内出土土器	107
第52図 水尻遺跡包含層出土土器（1）	108
第53図 水尻遺跡包含層出土土器（2）	109
第54図 本川遺跡位置図	112
第55図 本川遺跡概要図	113
第56図 本川遺跡構造概略図	115
第57図 本川遺跡S E 2井戸跡	116
第58図 本川遺跡出土遺物	118
第59図 本川遺跡井戸枠	119

## 図版目次

図版 1 農林・土木事業他関係遺跡 ( 1 ) .....	28
図版 2 農林・土木事業他関係遺跡 ( 2 ) .....	29
図版 3 農林・土木事業他関係遺跡 ( 3 ) .....	30
図版 4 農林・土木事業他関係遺跡 ( 4 ) .....	31
図版 5 農林・土木事業他関係遺跡 ( 5 ) .....	32
図版 6 農林・土木事業他関係遺跡 ( 6 ) .....	33
図版 7 農林・土木事業他関係遺跡 ( 7 ) .....	34
図版 8 農林・土木事業他関係遺跡 ( 8 ) .....	35
図版 9 前田遺跡 .....	37
図版10 大橋遺跡 .....	39
図版11 下長橋遺跡 .....	41
図版12 浮橋遺跡・水尻遺跡 .....	43
図版13 小深田遺跡 .....	45
図版14 仁田田遺跡 .....	47
図版15 橫代遺跡 .....	49
図版16 熊野田遺跡 .....	51
図版17 手藏田 3 遺跡 .....	53
図版18 大堀新田遺跡 .....	55
図版19 手藏田 4 遺跡 .....	57
図版20 手藏田 5 遺跡(手藏田 5・8 遺跡) .....	59
図版21 手藏田 6 遺跡 .....	61
図版22 手藏田 9 遺跡 .....	63
図版23 本川遺跡 .....	65
図版24 助作遺跡 .....	67
図版25 山田遺跡 .....	69
図版26 早房 A 遺跡 .....	71
図版27 柳沢条里遺跡 .....	73
図版28 赤岩遺跡 .....	75
図版29 寝鹿遺跡 .....	77

図版30	前田遺跡近景	81
図版31	前田遺跡調査区(B区)近景 前田遺跡調査区(A区)近景	82
図版32	下長橋遺跡調査風景	85
図版33	下長橋遺跡東西トレンチ全景 下長橋遺跡南北トレンチ全景	87
図版34	下長橋遺跡遺構検出状況 下長橋遺跡遺構掘り下げ状況	88
図版35	下長橋遺跡検出遺構	89
図版36	下長橋遺跡R P 1 出土状況	91
図版37	下長橋遺跡遺物出土状況	95
図版38	下長橋遺跡出土遺物(1)	96
図版39	下長橋遺跡出土遺物(2)	97
図版40	下長橋遺跡遺物出土状況	98
図版41	水尻遺跡検出遺構	101
図版42	水尻遺跡近景	102
図版43	水尻遺跡北トレンチ・南トレンチ	104
図版44	水尻遺跡トレンチ調査風景	105
図版45	水尻遺跡溝状遺構検出状況	106
図版46	水尻遺跡	107
図版47	水尻遺跡出土土器	110
図版48	水尻遺跡調査風景	111
図版49	本川遺跡S E 2 井戸跡	117
図版50	本川遺跡近景	118
図版51	本川遺跡トレンチ全景	121
図版52	本川遺跡S E 2 井戸跡	122
図版53	本川遺跡S E 2 井戸跡	123
図版54	本川遺跡出土土器 S E 2 井戸枠	124

# I 調査の方法と経緯

## 1 調査の方法

本調査は、昭和63年度以降に実施予定の大規模な各種開発計画等に先行して、埋蔵文化財包蔵地(遺跡)の詳細な分布調査を実施し、各種開発機関との十分な調整を行いつつ遺跡の保存を図ることを目的とするものである。その調査結果は、開発事業の計画策定における事前協議の基礎資料となる。

調査は、遺跡の位置・内容・規模等を明確にするため、次の3段階に分けて行った。

### (1) A調査（現地確認調査・表面踏査）

開発事業計画や実施区域について表面踏査を行い、遺跡の所在及び事業範囲との関わりを確認するものである。

### (2) B調査（試掘調査）

遺跡について坪掘りやトレンチ掘りを実施し、その範囲・性格等を明らかにして詳細な資料を得るものである。その記録は、各種開発事業側との協議や調整を行う際の重要な資料となり、また、緊急発掘調査を実施する場合の経費の積算や調査計画の基礎資料となるものである。

### (3) C調査（小規模な発掘調査）

A・B調査の結果、遺跡の保存状態が良好でない場合や、開発事業に係る範囲が小さかったり、接する状態の場合等について、必要に応じ実施するものである。調査の方法は、一部重機械等を用いたりしながら発掘調査の方法に準ずる。

## 2 調査に至るまで

埋蔵文化財保護の観点から、県教育委員会では昭和63年度以降の農林・土木事業他の各種事業計画について、関係機関への照会を行った。その回答を受けて、昭和62年9月9日～11日、21・22日、「山形県遺跡地図」(昭和53年3月発行・山形県教育委員会編)等を参考しながら、開発事業計画についてヒアリングを実施した。次にその内容に基づき、事業実施予定地域を中心に、同年9月から12月まで分布調査を実施した。特に今年度は、大型補正予算(NTT)に伴う事業実施計画があり、それも含めて調査を行った。各遺跡毎の調査区分については、表-1、年間の調査工程については、表-2に表示した。

なお、前年度に引き続き、埋蔵文化財包蔵地基礎調査を行い、今年度は寒河江市・長井市について実施した。

### 3 調査の経過

調査は、県教育委員会が主体となり、関係市町村教育委員会・開発機関等の協力を得て、昭和62年4月から同年12月まで実施した(表-1・2)。

#### (1) 昭和63年度以降・土木事業他関係分布調査

調査期間 昭和62年6月16日～昭和62年12月18日

協力機関 関係市町村教育委員会・関係開発機関

内 容 44遺跡についてA調査、46遺跡についてB調査、7遺跡についてC調査をそれぞれ実施した。うち5遺跡が今年度新規確認である。

#### (2) 立会い調査

調査期間 昭和62年4月27日～昭和62年12月18日

協力機関 関係市町村教育委員会・関係開発機関

内 容 諸開発事業で、遺跡の現状変更が軽微な場合に行う確認調査である。  
調査の結果によって、調査後工事に入る場合と、工事を中止してC調査  
もしくは緊急発掘調査を実施する場合とに分けられる。

今年度は、7事業12遺跡について実施した。

#### (3) 埋蔵文化財包蔵地基礎調査

調査期間 昭和62年10月26日～昭和62年11月17日

協力機関 寒河江市教育委員会・長井市教育委員会

内 容 昭和53年度に山形県教育委員会では、県内全市町村管内について遺跡の登録並びに周知の目的で『山形県遺跡地図』を発行した。以来、年月の経過に伴って遺跡所在地周辺の環境の変化、あるいは新規に発見された遺跡数の増加及び遺跡所在位置の訂正等により、その内容についての追加・訂正等が、関係各方面から望まれてきている。

以上のことから、県教委では昭和59年度から新たに埋蔵文化財包蔵地基礎調査として、各市町教育委員会の協力を得ながら分布調査を実施しているものである。

今年度は、下記地区について実施した。

○寒河江市

調査は、3遺跡についてA調査を実施した。うち2遺跡が今年度新規確認である。

○長井市

調査は、今年度新規確認の1遺跡についてA調査を実施した。





表-2 調査工程表

調査区分 期日	昭和62年												昭和63年	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	3月			
(1) 農林・土木事業他														
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%			
	(A)	(A)	(A)	(A)	(A)	(A)	(B)	(B)	(C)	(C)	(C)			
(2) 立会い調査														
	%	%	%	%	%	%								
	(A)	(A)	(A)	(A)	(A)	(A)								
(3) 墓園文化財保護地 基礎調査関係														













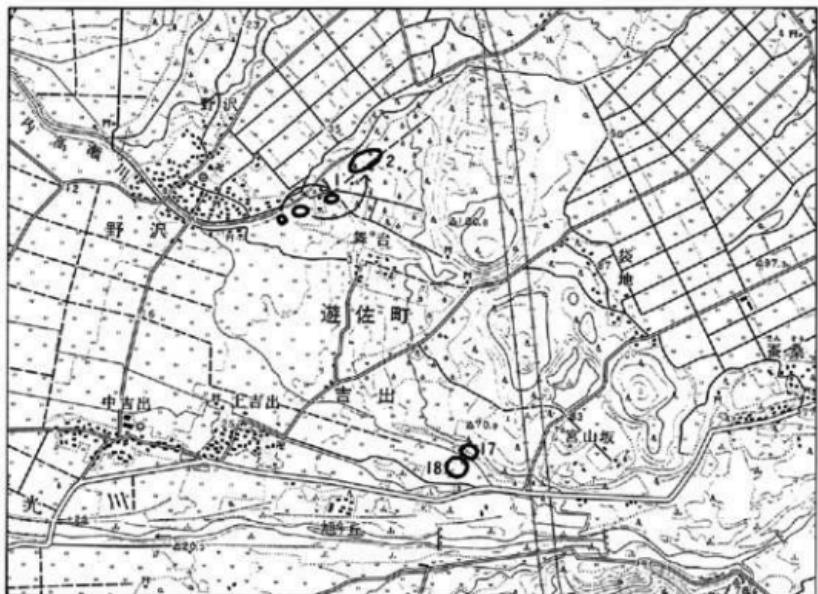


遺跡概要	出土遺物	備考
遺跡北側を調査。遺構は検出されない。調査区両側の桑畠外では遺物が多量に散布しており、主体は段丘上面とみられる。	縄文時代中期土器片・晚期土器片・石獣・石匙・フレイク	No 1453 昭和63年度県教委立会調査実施予定

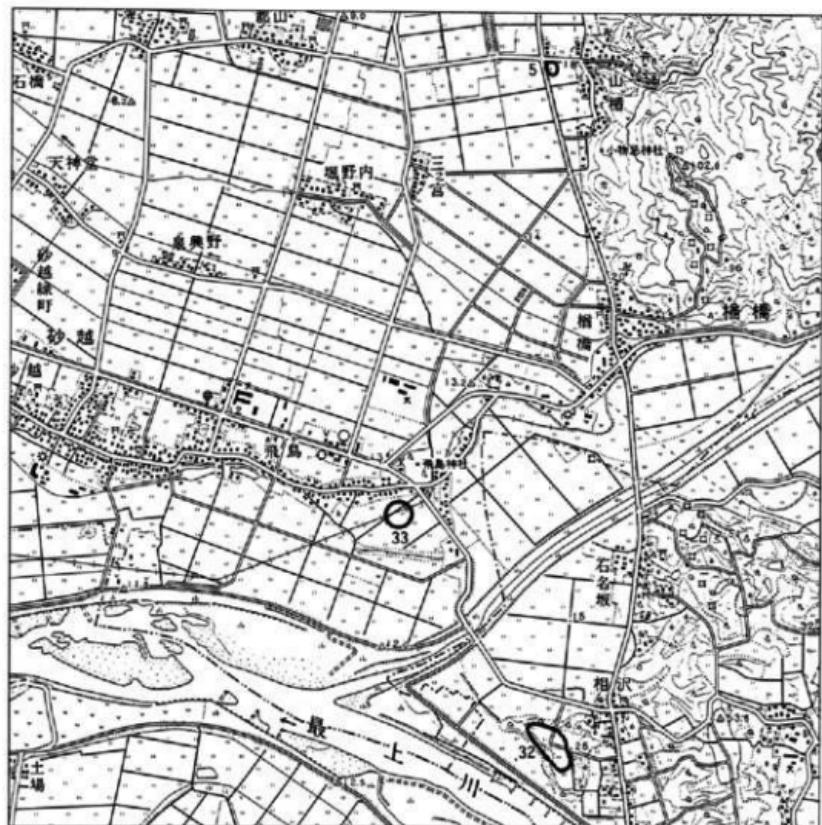
遺跡概要	出土遺物	備考
大島川右岸を南北にのびる段丘上に立地する。 村道上野線西側の畑地に遺物を散布する。	フレイク	新規(昭和59年)

遺跡概要	出土遺物	備考
野川左岸、蛇行部により南側に張り出す地形を示す。遺物は広範囲に散布し、とくに段丘縁辺部に集中する。西側は水田開田の際破壊される。	縄文時代早期・前期・中期・後期土器片・磨製石斧・石匙・フレイク	新規(昭和61年)

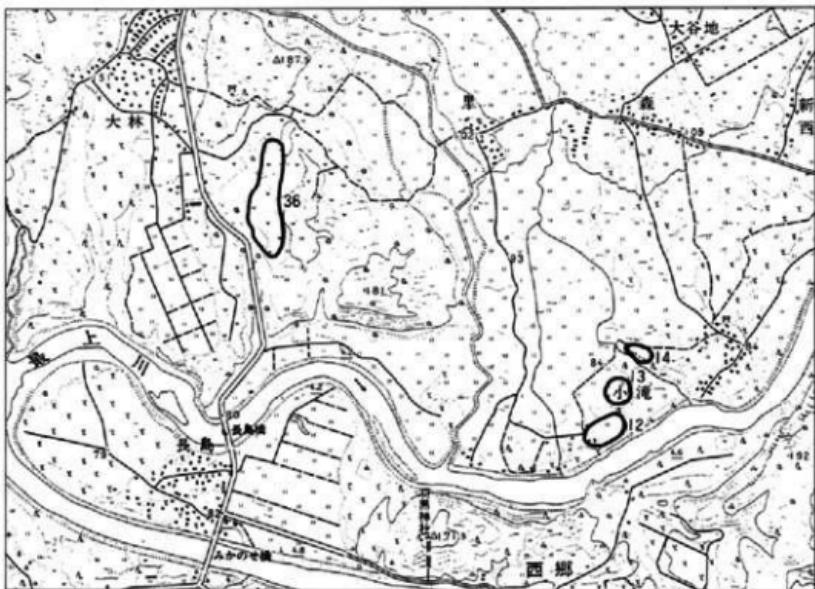
遺跡概要	出土遺物	備考
寒河江川の形成した段丘上に位置し、田国道の両側の畑地に石器多数、土器片若干が散布する。	縄文土器片 石獣・剝片	新規(昭和62年)
富沢1遺跡の東方100mに位置し、段丘上に立地する。畑地に石器が多量散布する。	石錐・剝片・石核	新規(昭和62年)
富沢2遺跡の東方300mに位置し、段丘上に立地する。現在は遺物の散布を確認できないが、細石刃連石器がかつて採集されている。	細石刃ブランク スキー状スボール・石核	新規
山林・荒地となっているため遺物の散布を確認することはできなかったが、試掘溝から剝片が出土した。範囲等については不明である。	フレイク	新規(昭和62年)



第1図 農林・土木事業他関係遺跡位置図（1）



第2図 農林・土木事業他関係遺跡位置図（2）



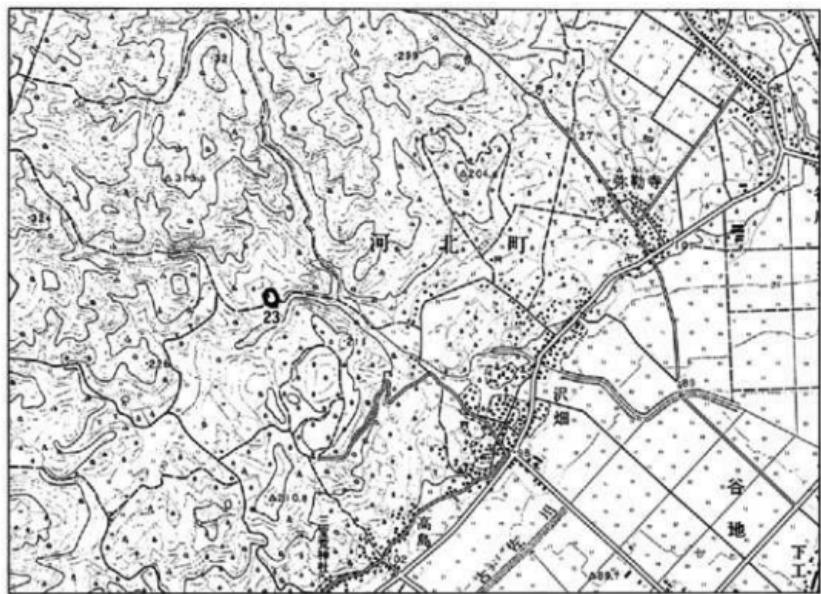
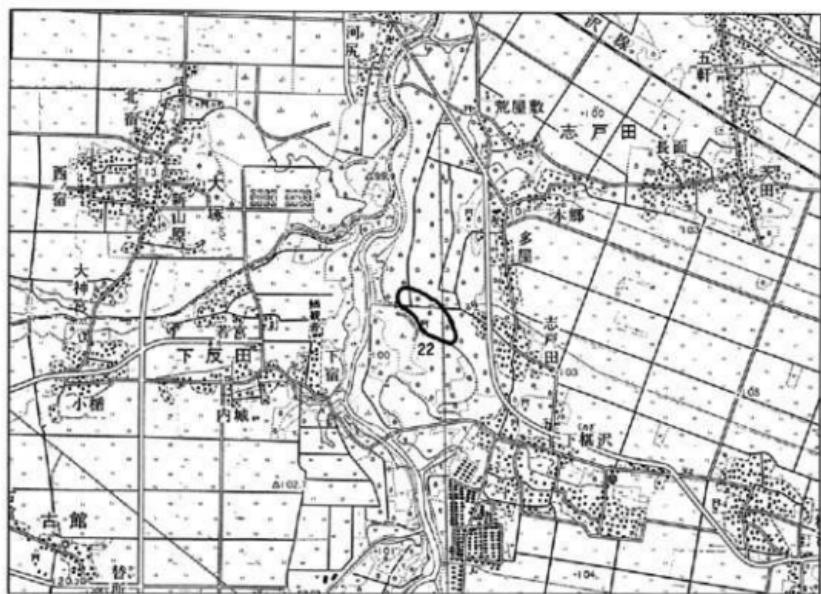
第3図 農林・土木事業他関係遺跡位置図（3）



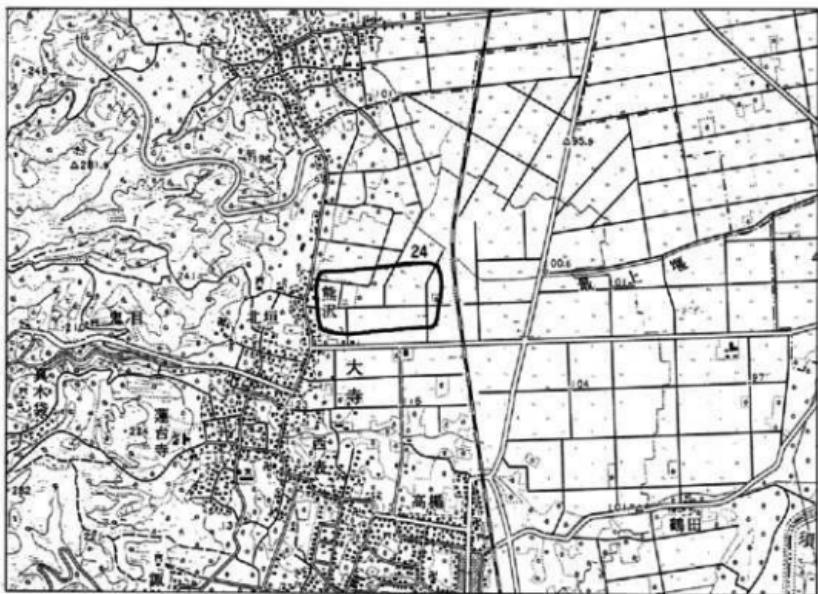
第4図 農林・土木事業他関係遺跡位置図（4）



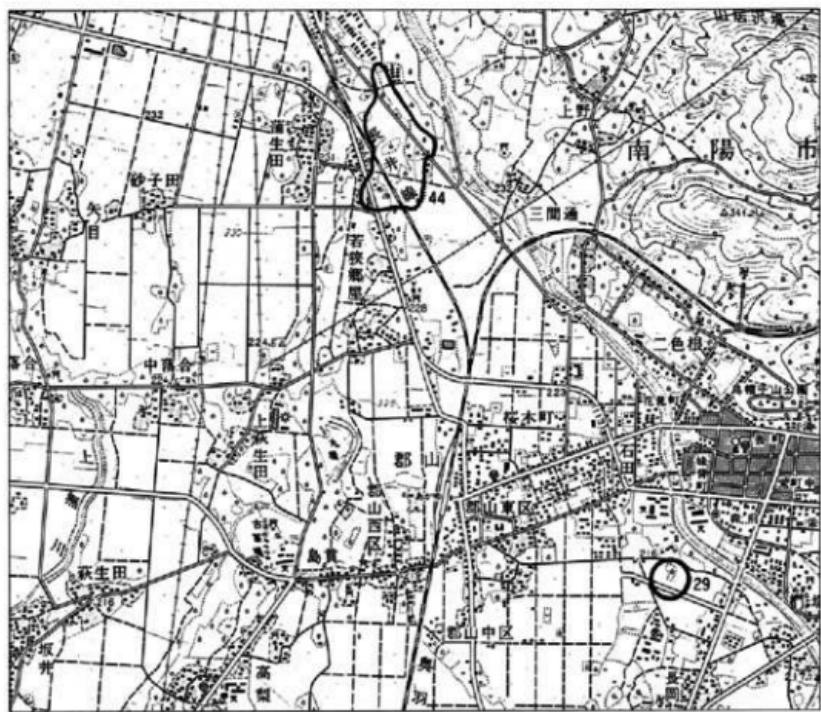
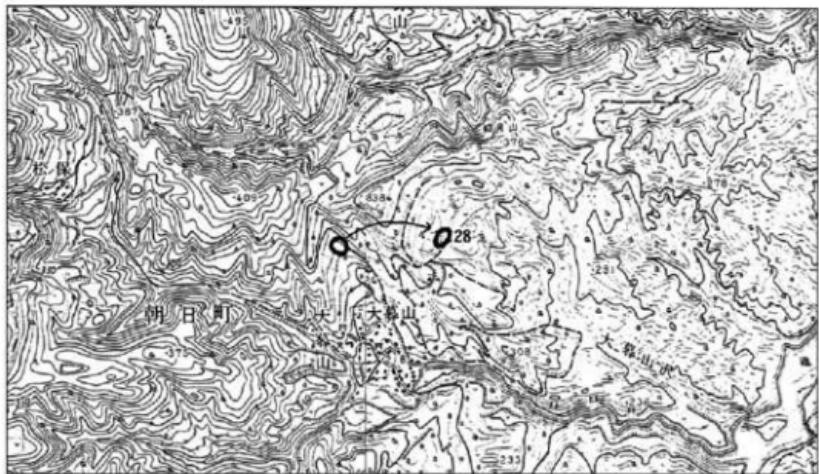
第5図 農林・土木事業他関係遺跡位置図（5）



第6図 農林・土木事業他関係遺跡位置図（6）



第7図 農林・土木事業他関係遺跡位置図（7）

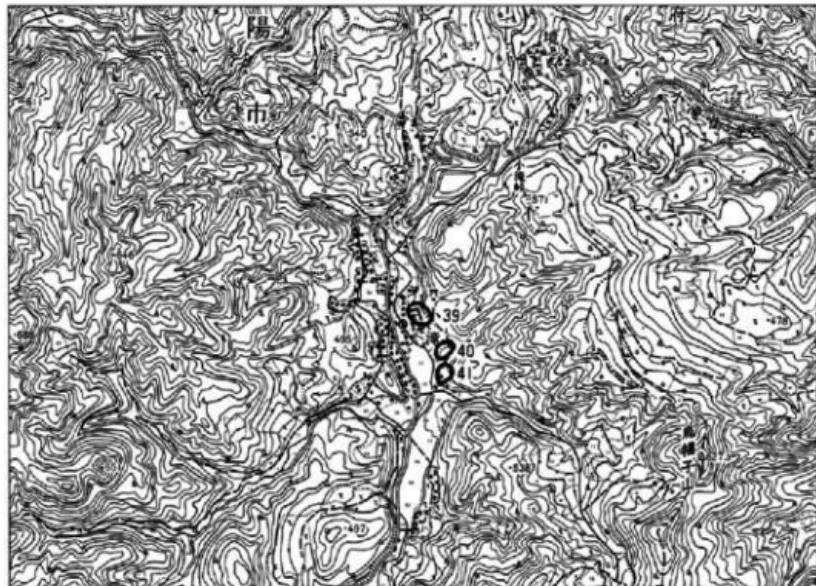


第8図 農林・土木事業他関係遺跡位置図（8）

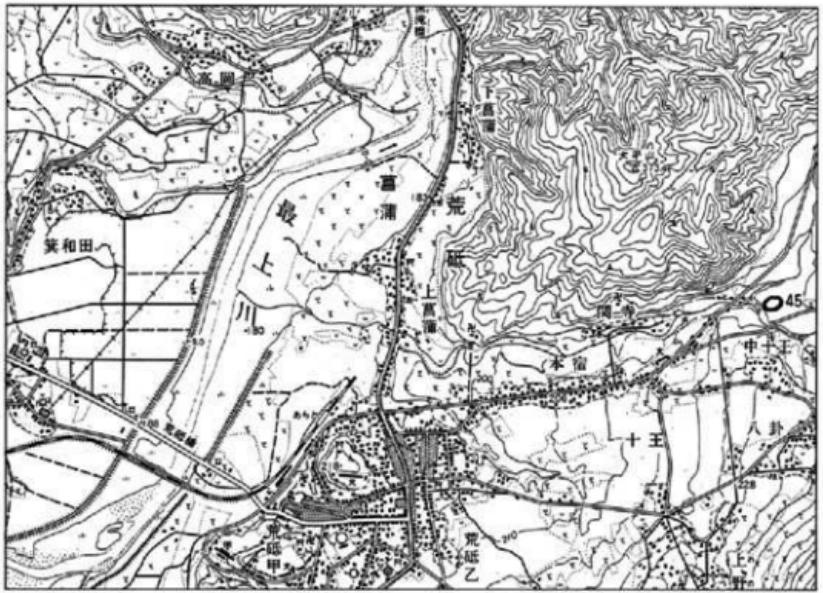


第9図 農林・土木事業他関係遺跡位置図（9）

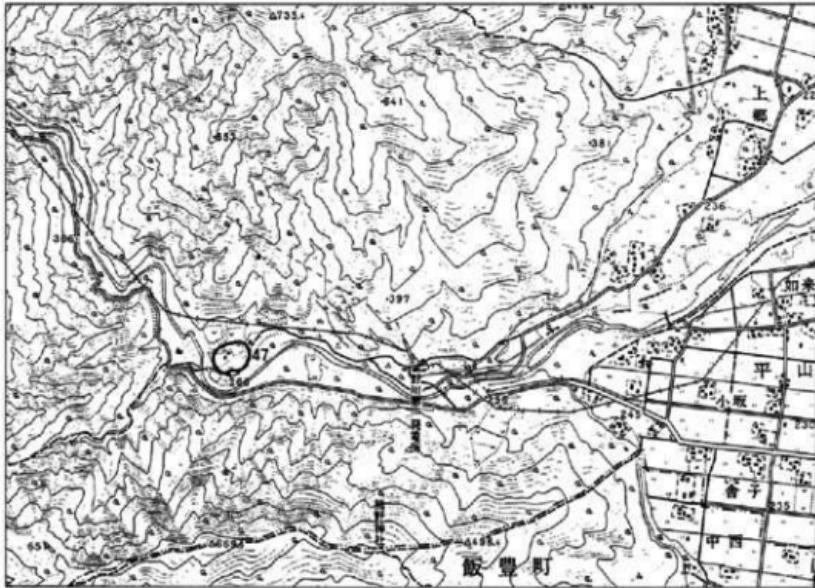




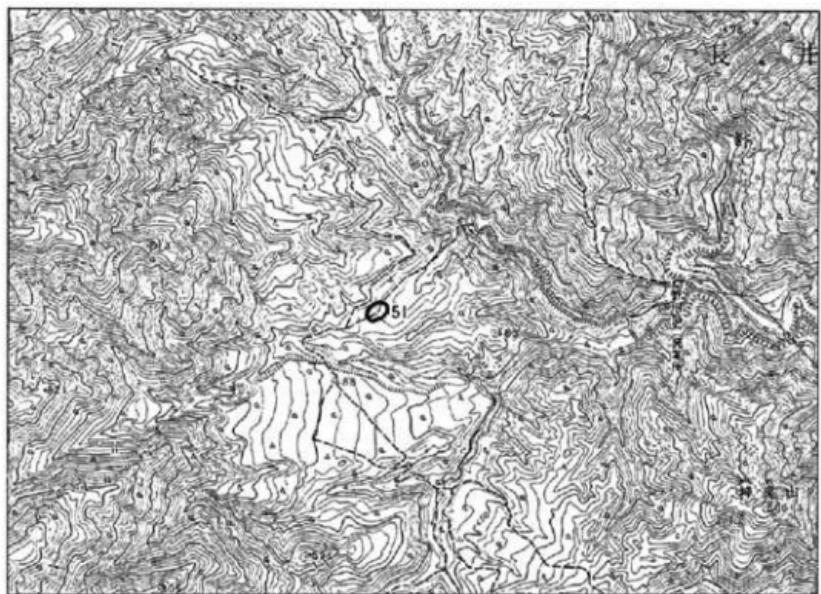
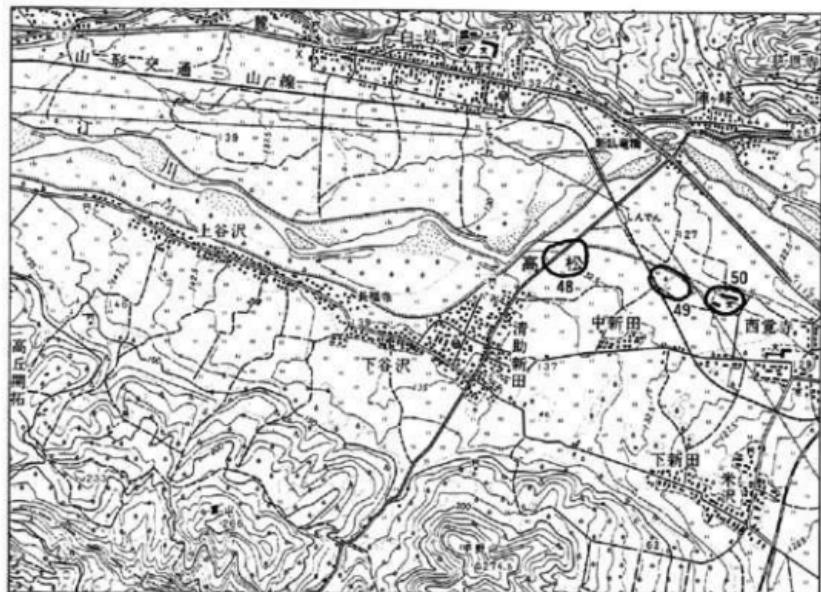
第II図 農林・土木事業他関係遺跡位置図 (II)



第12図 農林・土木事業他関係遺跡位置図 (12)



第13図 農林・土木事業他関係遺跡位置図 (13)



第14図 農林・土木事業他関係遺跡位置図 (14)



ヨセンボ遺跡近景（南西から）



船止遺跡近景（北東から）



萩島遺跡近景（東から）



萩島遺跡出土遺物



山樋遺跡近景（南西から）



山樋遺跡出土遺物



南口 A 遺跡近景（南西から）



南口 B 遺跡近景（西から）

図版 I 農林・土木事業他関係遺跡（I）



金沼館遺跡近景（南から）



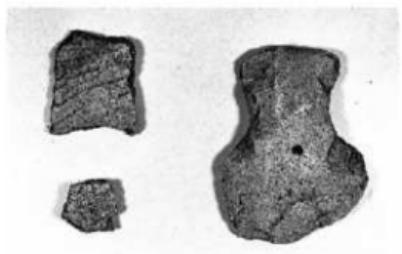
宮曾根館遺跡近景（東から）



宮曾根館遺跡近景（南から）



玉の原 A 遺跡近景（北から）



玉野原 A 遺跡出土遺物



玉の原 B 遺跡近景（東から）



早房 B 遺跡近景（西から）



早房 C 遺跡近景（北から）



早房D遺跡近景（北から）



茅台遺跡近景（南から）



スルス沢遺跡近景（南東から）



スルス沢遺跡採集遺物



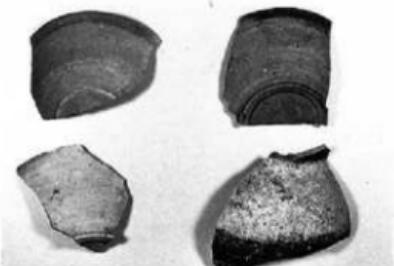
金平A遺跡近景（西から）



金平B遺跡近景（北から）



長慶寺原遺跡近景（から）



長慶寺原遺跡出土遺物

### 図版3 農林・土木事業他関係遺跡（3）



山辺北条理遺跡近景（南から）



早坂山A遺跡近景（北から）



早坂山B遺跡近景（南から）



早坂山D遺跡近景（東から）



大塚遺跡近景（東から）



大塚遺跡採集遺物



季の木遺跡近景（北から）



季の木遺跡出地土遺物

図版4 農林・土木事業他関係遺跡（4）



高瀬山K遺跡近景（北から）



道南遺跡近景（南から）



徳田山遺跡近景（北から）



飛鳥神内遺跡（南東から）



来迎寺館跡近景（西から）



濠跡検出状況



濠跡土層断面



鷺の原A遺跡近景（南から）

図版5 農林・土木事業他関係遺跡（5）



深沢向山遺跡近景（南から）



深沢向山遺跡（南から）



深沢向山遺跡採集遺物



宮下遺跡近景（東から）



宮下遺跡採集遺物



猪野沢横台遺跡（北から）



猪野沢横台遺跡採集遺物



向畠 A 遺跡近景（南から）



向畠B遺跡遠景（南西から）



向畠C遺跡近景（西から）



伊達の城遺跡近景



石仏寺遺跡近景（東から）



観音堂遺跡近景（北から）



大豆田下遺跡近景（西から）



大豆田下遺跡出土遺物



上野山D遺跡遠景（東から）

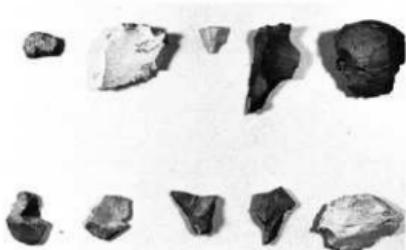
図版7 農林・土木事業他関係遺跡（7）



高根遺跡遠景（南から）



富沢 I 遺跡近景（東から）



富沢 I・2 遺跡採集遺物



富沢 2 遺跡近景（東から）



西覚寺遺跡近景（西から）



桂谷遺跡近景（南から）



桂谷遺跡土層断面



桂谷遺跡出土石器

## 2 試掘調査実施遺跡

### (1) 前田遺跡（遺跡番号 2004）

所 在 地 山形県酒田市大字保岡字前田79

調 査 員 名和達朗

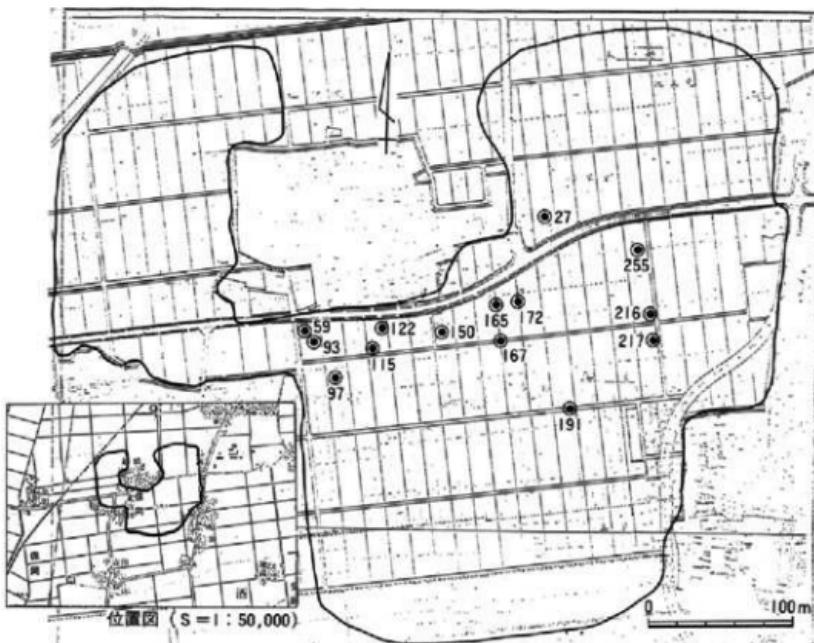
調 査 期 日 B調査 昭和62年10月21・22日

遺跡の概要 本遺跡は、羽越本線本楯駅の南方約1km、また国指定史跡「城輪柵跡」東西線上西側 約2.5kmに位置する。越橋・北吉田・鳥海・庭田地区の間の水田に遺物を散布する。標高は約7mを測る。範囲は東西1,500m、南北750m、面積 約435,000m<sup>2</sup>が考えられる。

ここに、昭和63年度農村基盤整備総合パイロット事業・庄内地区が計画されたため、今回分布調査を行ったものである。

調査は、主として水田畦畔について1～3ヶ所の坪掘りを入れ、計291ヶ所、うち14ヶ所から遺構・遺物を検出した。遺構は、柱穴・溝跡（？）、遺物は、II層が包含層で、水田面下約15～35cmの深さから検出され、須恵器・赤焼土器である。

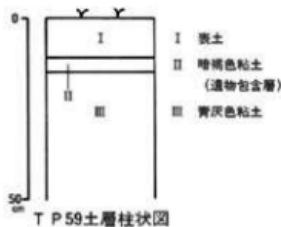
以上の内容から、本遺跡は広い散布範囲をもつ平安時代の集落跡であると考えられる。



第15図 前田遺跡概要図



遺跡近景（北から）



図版 9 前田遺跡

(2) 大橋遺跡 (遺跡番号 2177)

所 在 地 山形県飽海郡遊佐町大字小原田字橋の内・塚・大根 他

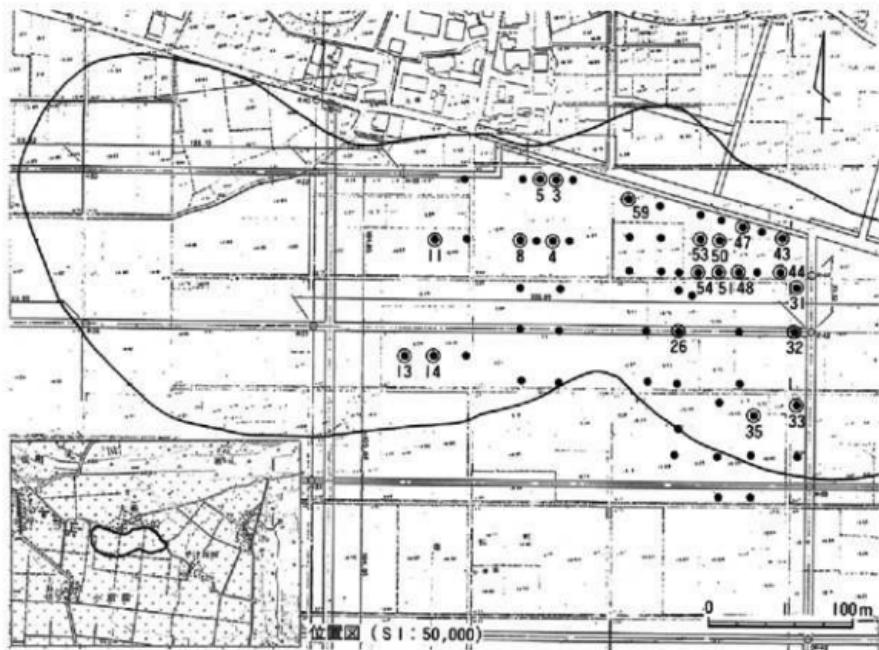
調 査 員 渋谷孝雄

調 査 期 日 B調査 昭和62年10月13・14日

遺跡の概要 遺跡はJR東日本羽越本線遊佐駅の東南東 約1.5kmに位置し、鳥海山を源とする月光川左岸の氾濫原とそれから3m前後の比高差をもつ段丘上に立地する。標高は12~20mをはかる。

県教委は県営は場整備事業(月光川左岸地区)計画が具体化しつつあった昭和59年度から毎年、事業計画との調整に資するための遺跡詳細分布調査を行ってきた(山形県教委 1985、1986、1987)。また、本年度からは記録保存のための緊急発掘調査も実施される運びとなり堂田地区を対象として4月15日~8月7日まで延べ74日間にわたって発掘調査が行われ、居館にかかわる遺構や12~13世紀の遺物が多数発見された。

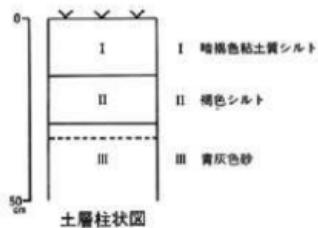
本年度は63年度には場整備事業が予定されている地区を対象として試掘調査を実施した。その結果、61ヶ所の試掘溝のうち21ヶ所から遺構や遺物が検出された。遺物は中世のかわらけ・陶器などが大半であり、従来の堂田地区から大根地区へ連続して同一時期の遺構・遺物が分布していると判断される。



第16図 大橋遺跡概要図



遺跡近景（南から）



基本層序



基本層序



出土遺物

(3) 下長橋遺跡 (遺跡番号 2182)

所 在 地 山形県飽海郡遊佐町大字小原田字村西

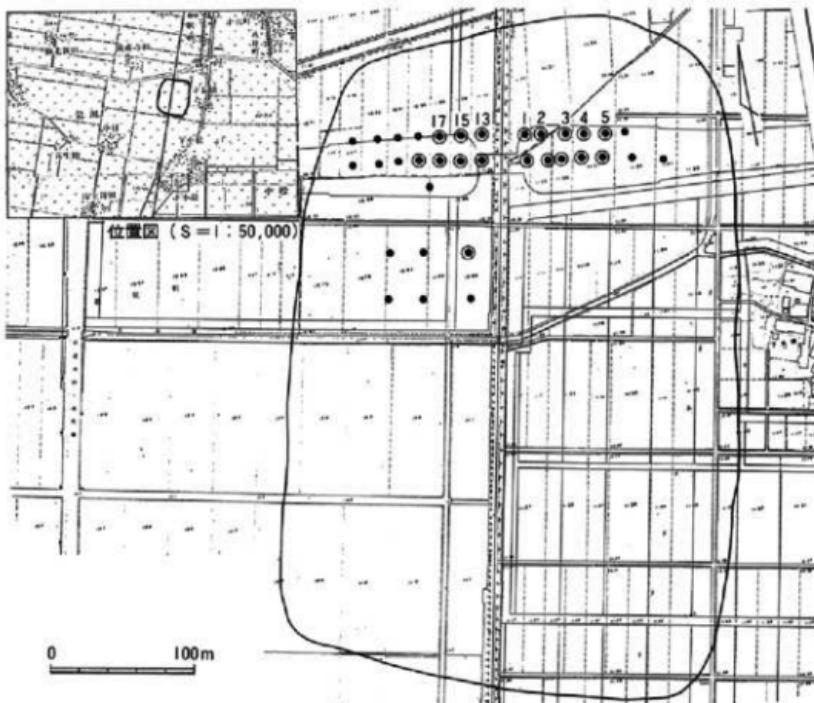
調 査 員 野尻 侃・伊藤邦弘

調 査 期 日 B調査 昭和62年10月28・29日

遺跡の概要 遺跡は、羽越本線遊佐駅の南 約800m、遊佐町下長橋部落の西側に位置し、標高は約11mを測る。地目は、羽越本線の軌道が走る他は、水田で占められる。

今回の遺跡詳細分布調査は、昭和63年に施工予定の県営は場整備事業(月光川左岸地区)県道藤崎遊佐線新設事業との調整に資するため実施したものである。なお遺跡の一部については、昭和62年度県営灌漑排水事業に係る緊急発掘調査を行っている。

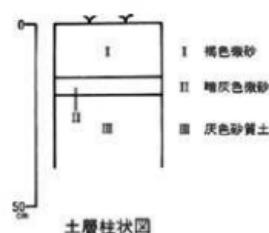
今回の調査は、昭和63年度事業予定区内、特に北側を中心に行い、26ヶ所のテストピットを入れた。その結果、柱穴や土壙と考えられる遺構と、須恵器・内黒土器等の遺物を確認でき、遺跡は、昭和62年度調査区からさらに北と西へ広がっていることが判明した。遺跡の性格は、平安時代から中世にかけての集落跡と考えられる。



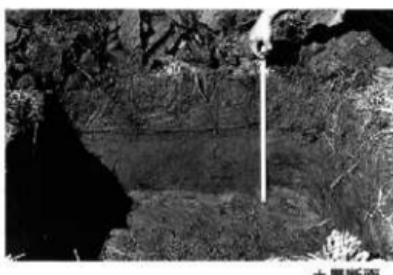
第17図 下長橋遺跡概要図



遺跡近景（南から）



遺物出土状況



土層断面



出土遺物

図版II 下長橋遺跡

(4) 浮橋遺跡(遺跡番号 2180)・水尻遺跡(遺跡番号 2179)

所 在 地 山形県飽海郡遊佐町大字小原田字浮橋・稻荷・水尻

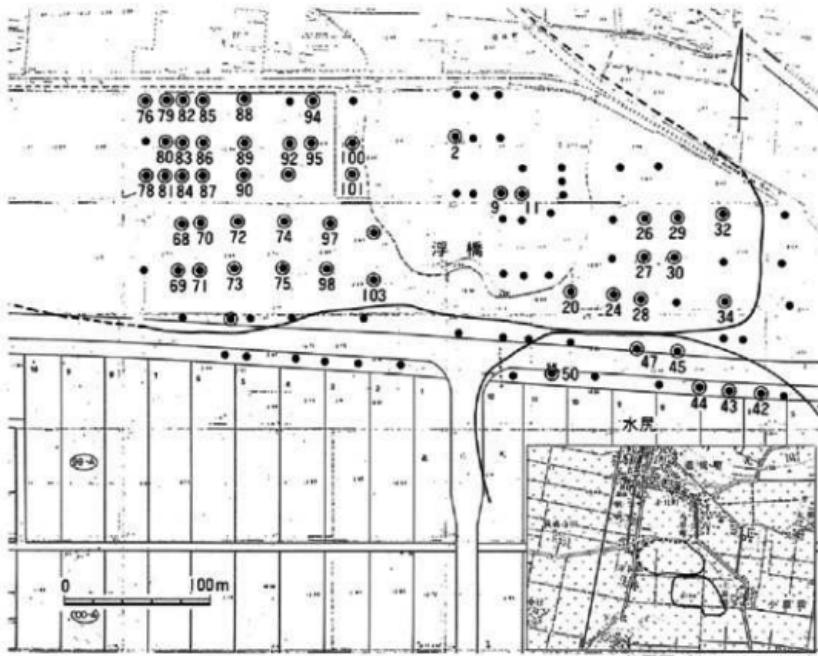
調 査 員 渋谷孝雄

調 査 期 日 B調査 昭和62年10月14・15日

遺跡の概要 浮橋遺跡はJR東日本羽越本線の南東約850mに位置し、水尻遺跡はそのすぐ南東側に隣接する。標高12~13mの平地に立地し、地目は大部分が水田で一部墓地、宅地となっている。今回の遺跡詳細分布調査は昭和63年度に予定されている県営ほ場整備事業(月光川左岸地区)との調整に資するために実施されたもので、水尻遺跡の大半について昭和62年度秋の大型補正で急速年度内事業となつたため、破壊を免れない部分についての調査を行っている(本書99頁参照)。調査の結果は以下のとおりである。

浮橋遺跡は北と西については未確定であるが、東西400m以上、南北200m以上の範囲をもち、西半部(TP68~103)からは平安時代の遺構と遺物が検出され、東半部(TP2~34)では鎌倉時代の遺物が多く出土した。

水尻遺跡は東西430m、南北250mの範囲をもち、その北端部が今回の分布調査の対象地区である。11ヶ所の試掘溝のうち6ヶ所で平安時代の赤焼土器・須恵器などの破片が出土した。

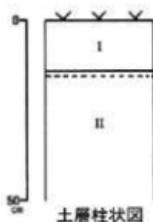


第18図 浮橋遺跡・水尻遺跡概要図

位置図 (S=1:50,000)

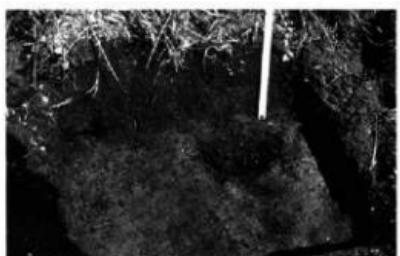


遺跡近景（南西から）



I 暗褐色粘土質シルト  
II 灰褐色シルト (地山)

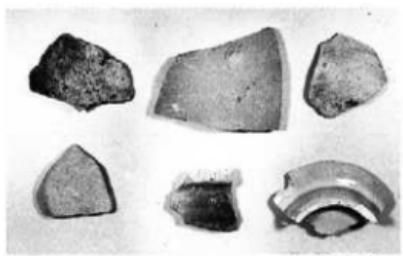
土層柱状図



検出遺構



土層断面



出土遺物

図版12 浮橋遺跡・水尻遺跡

(5) 小深田遺跡（遺跡番号 2076）

所 在 地 山形県鮎川郡遊佐町大字遊佐町字小深田17~20

調 査 員 名和達朗・渋谷孝雄

調 査 期 日 B調査 昭和62年10月15・16日

遺跡の概要 本遺跡は、羽越本線遊佐駅西側に位置し、月光川左岸に広がる水田に遺物を散布する。標高は、約10mを測る。範囲は、東西約800m・南北約600m、面積 約405,000m<sup>2</sup>が考えられる。

ここに、昭和63年度県営圃場整備事業・月光川左岸地区及びかんがい排水事業・月光川地区が計画されたため、今回分布調査を実施することになったものである。

調査は、主として水田畦畔について1~3ヶ所の坪掘りを行い、総数156ヶ所のうち78ヶ所から遺構・遺物が検出され、当初の位置（『山形県遺跡地図』）からさらに南側に範囲の広がることが確認された。遺構は、柱穴・溝跡、遺物は、II層が包含層で、水田面下10~40cmの深さから土師器・須恵器・赤焼土器が出土した。

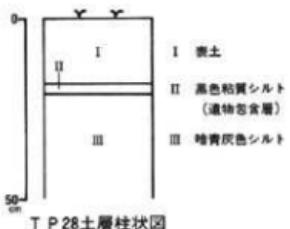
以上の内容から、本遺跡は広い散布範囲をもつ、平安時代の集落跡であることが考えられる。



第19図 小深田遺跡概要図



遺跡近景（東から）



TP 28 土層断面



TP 28 遺構検出状況



出土遺物

## (6) 仁田田遺跡（遺跡番号 2112）

所 在 地 山形県鮎川郡遊佐町大字野沢字仁田田163～165 他

調 査 員 名和達朗

調 査 期 日 A調査 昭和62年10月19日 B調査 昭和62年10月20日

遺跡の概要 本遺跡は、野沢地区東側、野沢川の第三野沢橋左岸の山麓から広がる水田に位置する。標高は16m前後を測る。範囲は、東西350m・南北360m、面積約31,200m<sup>2</sup>が考えられる。

ここに、県営圃場整備事業・月光川右岸地区が計画されたため、今回分布調査を実施することになったものである。

調査は、町道野沢・舞台線付近から入り、全部で95ヶ所坪掘りを行い、うち25ヶ所から遺構・遺物が確認できた。それらを基に5ヶ所の分布地点が考えられる。但し、大割区画の水田は、以前に基盤整備が入り傾斜地の高い部分は削平を受けているようである。遺構は、柱穴(TP 7・37)、遺物はⅡ層が包含層で、水田面下15～25cmの深さから須恵器・赤焼土器・フレイクが出土した。

以上の内容から、本遺跡は縄文時代・平安時代の集落跡であることが考えられる。



第20図 仁田田遺跡概要図



遺跡遠景（西から）



遺跡近景（東から）



土層断面



出土遺物

(7) 横代遺跡（遺跡番号 2044）

所 在 地 山形県酒田市大字横代

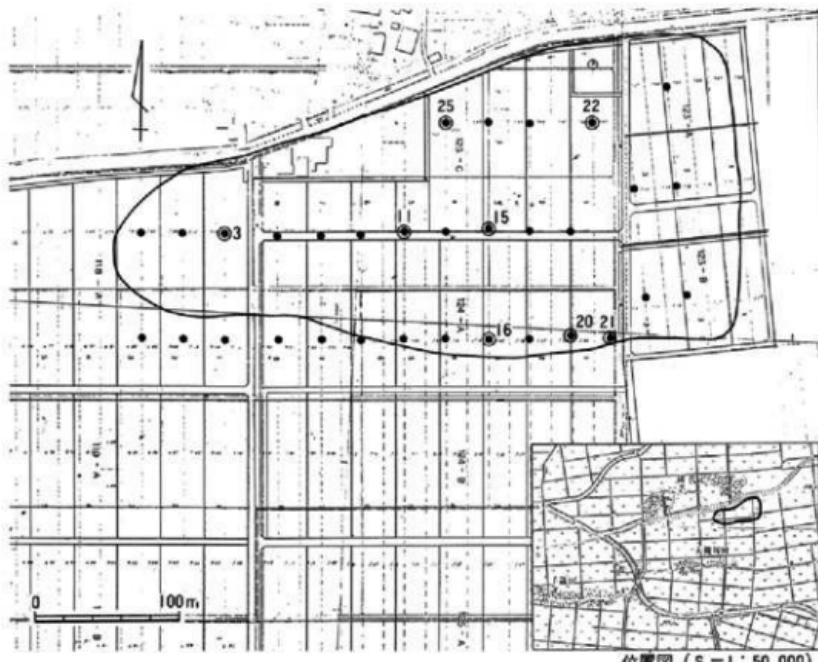
調査員 野尻 侃・伊藤邦弘

調査期日 B調査 昭和62年10月9日

遺跡の概要 遺跡は、横代部落の東端に位置し、標高は約7mを測る。地目は一部宅地を含む他は水田である。

今回の遺跡詳細分布調査は、昭和63年度に施工予定の県営圃場整備事業(平田地区)との調整に資するため実施したものである。事業予定区内に遺跡域を中心に32ヶ所のテストピットを入れた結果、8ヶ所から遺物が認められた。このことから遺跡範囲は東西約400m・南北約200mの約80,000m<sup>2</sup>に及ぶものと考えられる。地山までは、20cm~40cmを測り、状態は良好である。なお、東側は後背湿地が広がっているらしく、耕土下3層目に約20cmの厚さで泥炭が堆積し、遺構・遺物は検出できなかった。

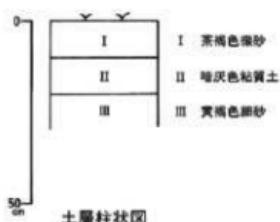
出土遺物には、須恵器・赤焼土器等がある。本遺跡の性格は、現在のところ平安時代の集落跡と考えられる。



第21図 横代遺跡概要図



遺跡近景（南から）



図版15 横代遺跡

(8) 熊野田遺跡（遺跡番号 2028）

所 在 地 山形県酒田市大字熊野田

調 査 員 安部 実

調 査 期 日 B 調査 昭和62年10月22・23日

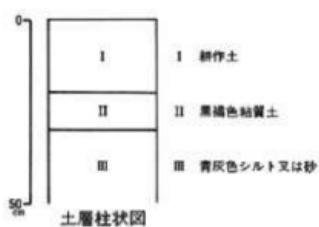
遺跡の概要 本遺跡は酒田市街から東方へ約 5 km、熊野田地区の水田中にある。標高は 3 ~ 5 m を測る。62年度には熊野田部落東側地区で、県教育委員会の緊急発掘調査が行われ、板材列に囲われた建物跡施設が検出された。今回の分布調査は、63年度に予定される県営圃場整備事業(平田地区)との調整に資するために実施した。調査は事業予定区内に試掘を行った。その結果、遺物(須恵器・赤焼土器)が全域にわたり出土した。



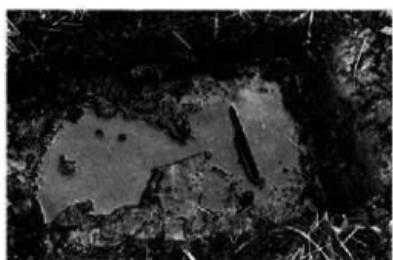
第22図 熊野田遺跡概要図



遺跡近景（南西から）



土層断面



試掘坑26 木製品出土状況



出土遺物（須恵器・赤焼土器・木製品）

(9) 手藏田3遺跡（遺跡番号 2031）

所 在 地 山形県酒田市大字手藏田字仁田67 他

調 査 員 野尻 侃・伊藤邦弘

調 査 期 日 B調査 昭和62年10月8日

遺跡の概要 遺跡は、大槻新田部落の西端に所在し、標高は約6mを測る。地目は水田である。本遺跡は、手藏田遺跡群の北東端にあたる。また道路を挟んで南側は、昭和62年度に緊急発掘調査が行われた大槻新田遺跡がある。

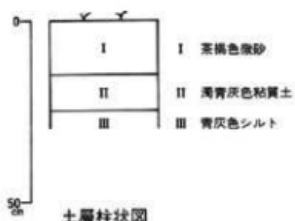
今回の遺跡詳細分布調査は、昭和63年度に施工予定の県営ほ場整備事業(平田地区)との調整に資するため実施したものである。調査では、事業予定区域内に36ヶ所のテストピットを入れた。その結果、11ヶ所で遺構または遺物が認められ、遺跡範囲は東西 約400m、南北約200mの約80,000m<sup>2</sup>に及ぶものと考えられる。遺構は柱穴と土壙が考えられ、遺物には須恵器・赤焼土器の出土があった。特に遺構・遺物の集中するところは遺跡範囲の南西で、地山の状態、遺物包含層とともに良好である。また平田川の東からも遺物は認められるものの、耕土下60cmから泥炭層になり、流れ込みと推測される。



第23図 手藏田3遺跡概要図



遺跡近景（東から）



土層柱状図



土層断面



土層断面



出土遺物

(10) 大槻新田遺跡（遺跡番号 2041）

所 在 地 山形県酒田市大字大槻新田字槻ノ下5

調 査 員 野尻 侃・伊藤邦弘

調 査 期 日 B調査 昭和62年10月7日

遺跡の概要 遺跡は、大槻新田部落の周囲を取り囲む形で存在する。標高は約7mを測る。地目は、一部宅地を含む他は水田である。部落東側の水路から多量の須恵器が出土し、部落内の水路からは柱痕が出土したことで知られる。なお部落南側については、昭和62年度の県営ほ場整備事業に係る緊急発掘調査を行っている。この調査で、本遺跡は平安時代から中世を含む集落跡であることが明らかになった。

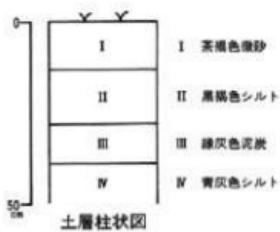
今回の遺跡詳細分布調査は、昭和63年度に施工予定の県営ほ場整備事業(平田地区)との調整に資するため実施したものである。調査は、事業予定区域内に54ヶ所のテストピットを入れ、遺跡までの層序と明確な遺跡範囲の確認を行った。その結果、19ヶ所から須恵器、赤焼土器等の遺物が認められ、遺跡範囲はさらに部落北側にも広がっていることが判明した。耕土下20cm前後にある地山の状態は良好であるが、部落北側の一部については以前に盤下げが行われており、削平を受けている可能性がある。



第24図 大槻新田遺跡概要図



遺跡近景（東から）



土層断面



遺構検出状況



出土遺物

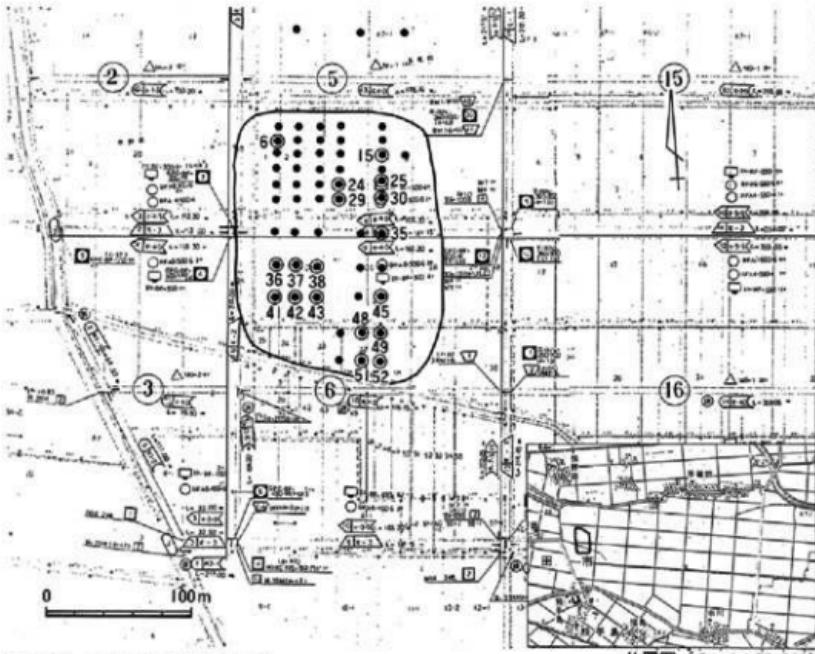
(II) 手藏田4遺跡 (遺跡番号 2032)

所 在 地 山形県酒田市大字手藏田字落合

調 査 員 長橋 至

調 査 期 日 B調査 昭和62年10月14日

遺跡の概要 遺跡は、酒田市熊手島地区の北側約300mの沖積平野の水田に位置する。標高は約4mを測る。調査は遺跡地図登載地点を中心に57ヶ所の試掘区を設定し実施した。その結果、遺跡範囲全域で遺構あるいは遺物が検出された。土層断面の観察によれば、遺跡の北～東側で50cm以上のやや深い泥炭層が確認され、古代では谷地的な地域となっていたことが予想される。中央～南側が地形的に微高地となっており、遺構・遺物の検出される量が多い。本遺跡は、過去の基盤整備作業の際、角柱根が大量に出土したと伝えられており、おそらくこの南側部分を中心に遺構が密集しているものと推測される。遺物包含層は微高地となる部分では表土直下が遺構検出面となり、全域に良好に認められる状況ではない。試掘による検出遺構は、土壤・溝跡・柱穴などがある。遺物は一括出土の須恵器・壺・赤焼土器など、比較的多量に出土している。時期は平安時代と考えられる。中心部分は過去に若干削平された可能性があるが、遺構・遺物の密集度には高いものがある。また、泥炭層のみられる地区では木製品等の有機遺物の出土も予想される。

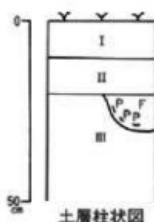


第25図 手藏田4遺跡概要図

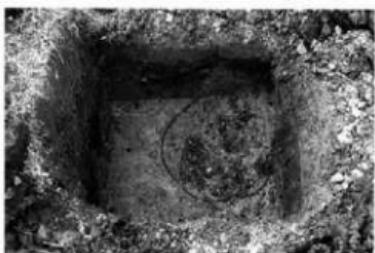
位置図 (S=1:50,000)



遺跡近景（西から）



- I 暗褐色土
- II 黒褐色シルト
- III 灰オリーブ砂質土  
F 暗褐色シルト(土坑)  
(P: 土器片)



土層断面・土坑検出状況（TP 48）



土層断面・柱穴検出状況（TP 49）



出土遺物

(12) 手藏田5遺跡(手藏田5・8遺跡)(遺跡番号 2033・2036)

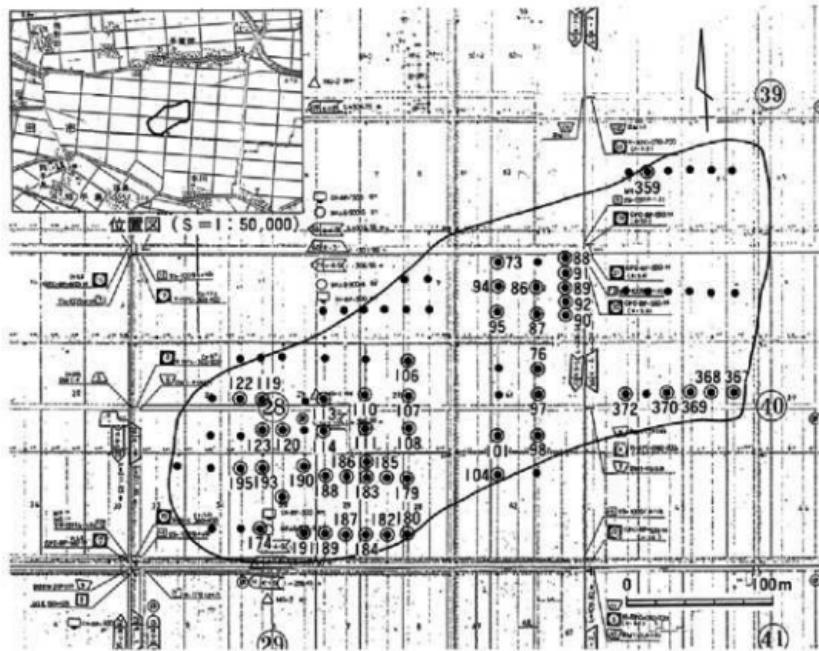
所 在 地 山形県酒田市大字手藏田字上向 他

調 査 員 長橋 至

調 査 期 日 昭和62年10月15~16日

遺跡の概要 遺跡は酒田市手藏田地区の南側 約400~500m、沖積平野の水田に位置する。標高は約5mを測る。遺跡地図登載地点及び周辺部について約100ヶ所の試掘区を設定し状況を探った。その結果、地図登載地点は遺構・遺物は出土するものの全体に希薄であり、遺跡はやや南側にその中心部が移動することが明らかとなった。すなわち、通称「灰捨場」と呼称されている方形の小塚周辺部(南側 100mの範囲)及び塚北東部100~150mの地点で良好な遺構・遺物の集中域が確認された。特に塚の南側部分は、全体に微高地となっており、遺物包含層が部分的に認められ、溝・土壤・柱穴等の遺構が検出された。また、遺物も包含層及び検出された遺構覆土中に良好に遺存している。塚北東部の集中域もほぼ同じような状況を呈しており、おそらくこの2地点は、北東~南西に延びる微高地上に営まれた遺跡と考えられる。時期は、出土遺物から平安時代と推測される。

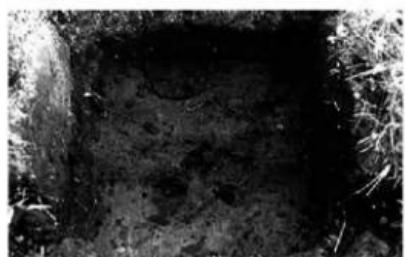
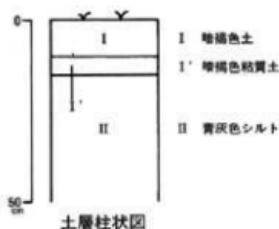
なお、手藏田5・8遺跡は、上述のように、遺跡地図の地点移動として扱えられるものである。



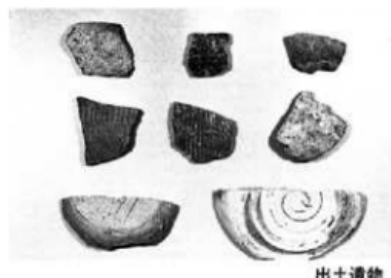
第26図 手藏田5遺跡(手藏田5・8遺跡)概要図



遺跡近景（東から）



土層断面・柱穴検出状況



出土遺物



出土遺物

図版20 手藏田5遺跡（手藏田5・8遺跡）

(13) 手藏田6遺跡（遺跡番号 2034）

所 在 地 山形県酒田市大字手藏田字杉ノ先

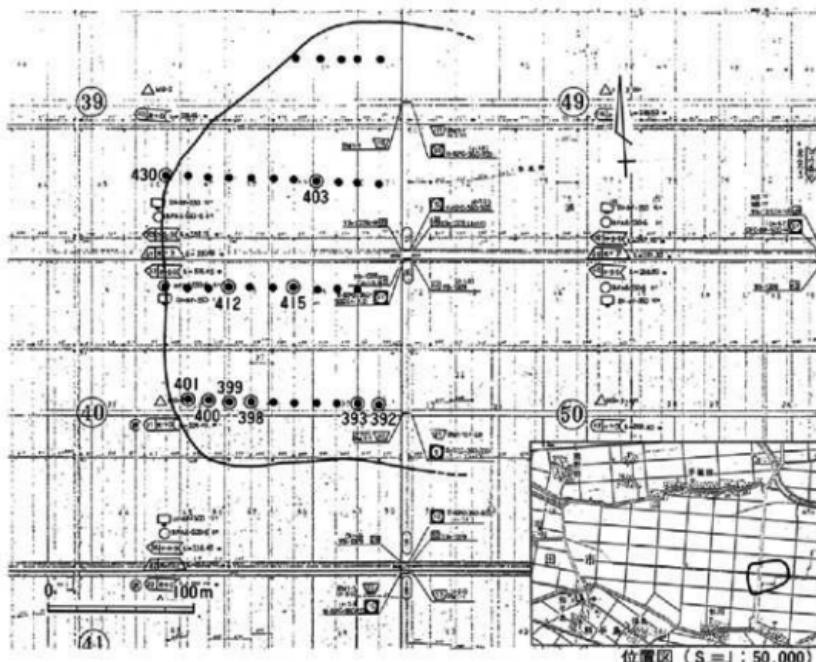
調 査 員 長橋 至・安部 実

調 査 期 日 B調査 昭和62年10月19・20日

遺跡の概要 遺跡は、酒田市手藏田地区の南東 約300mに位置する。標高約6mを測る沖積平野の水田に立地する。本遺跡については、遺跡範囲東半部分に関しては昭和61年度に分布調査(試掘)、62年に手藏田6・7遺跡として酒田市教育委員会により緊急発掘調査が実施されている。今回の調査は、ほ場整備事業区の関係上、遺跡西半部分と考えられる地区について実施した。その結果、遺構・遺物は遺跡西側にやや集中する傾向がみられた。ただし、遺跡東側(酒田市教育委員会調査地区側)排水路掘削時に比較的多量の土器片(須恵器・赤焼土器)が出土しており、この付近での遺構の存在も予測される。

遺物包含層は、旧地形の状況により、地点でやや異なるものの概ね良好に遺存している。また、試掘地点では遺構は未検出ではあるが、遺跡範囲内の微高地部分に遺存していると考えられる。

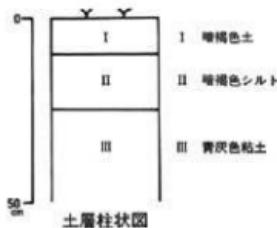
時期は平安時代と推定される。



第27図 手藏田6遺跡概要図



遺跡近景（南東から）



遺跡近景（東から）



土層断面 (TP 393)



出土遺物

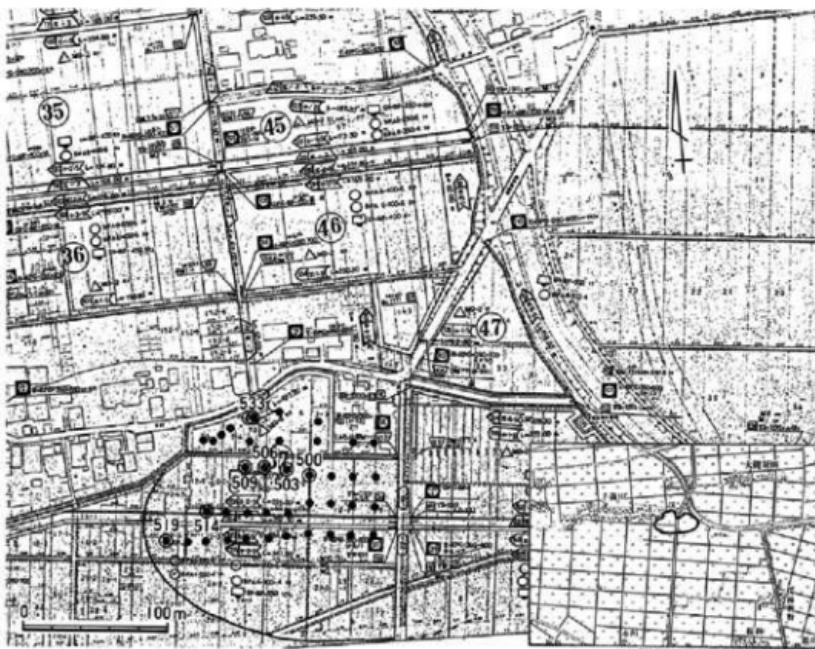
(14) 手蔵田9遺跡（遺跡番号 2037）

所 在 地 山形県酒田市大字手蔵田字舟通北7-14他

調 査 員 長橋 至・安部 実

調 査 期 日 B調査 昭和62年10月22日

遺跡の概要 遺跡は酒田市手蔵田地区の南東側に隣接する。沖積平野の微高地に位置し、標高は約5.5mを測る。地目は現在、水田・道路・宅地となっている。本遺跡に東側で隣接する手蔵田10・11遺跡は昭和62年度に県教委により緊急発掘調査が実施されている。その結果、平安時代・中世の集落跡、中世の墓塚群などが検出された。それらの結果を踏まえ本遺跡内に37ヶ所の試掘区を設定しその状況を探った。遺構・遺物は全体的にはやや希薄であるが、地形的には自然堤防状に周辺よりやや高く、遺跡の立地条件は充分に備えていると考えられる。遺物は遺跡中央からやや北寄りの地点で出土しており、明確な遺構は検出されないが、遺物包含層も部分的に遺存している状況から推測して何らかの遺構の存在が予想される。また、手蔵田10・11遺跡との関連でも、その周辺部という点で興味深い地区である。時期は出土遺物により平安時代をその中心とするものと推測される。手蔵田地区的道路敷より、過去に井戸が出土しており、その他、耕作中に柱根も出土したと地元では伝えられている。

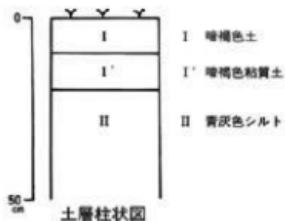


第28図 手蔵田9遺跡概要図

位置図 (S=1:50,000)



遺跡近景（南から）



土層断面



出土遺物

(15) 本川遺跡 (遺跡番号 2067)

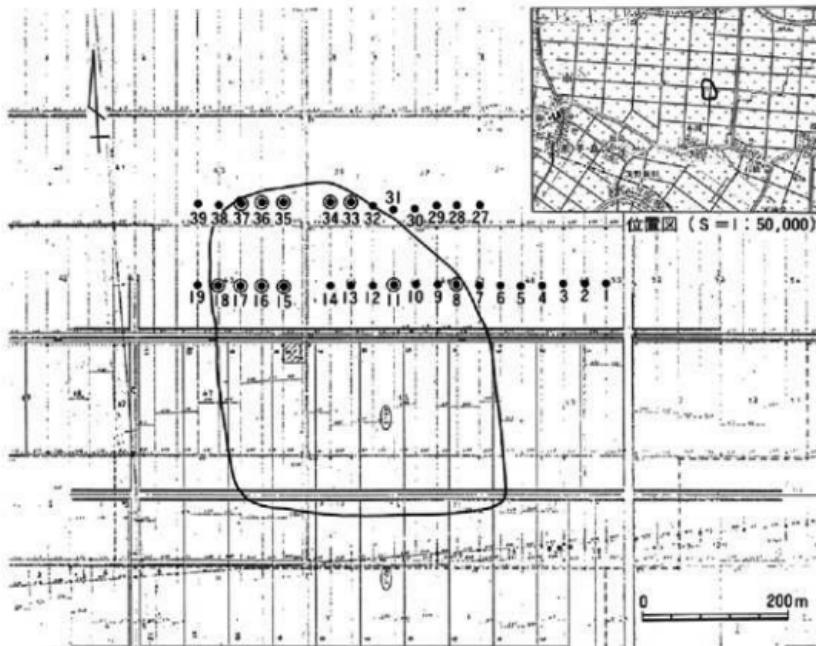
所 在 地 山形県酒田市大字本川字49番地 他

調 査 員 野尻 侃・伊藤邦弘

調 査 期 間 B調査 昭和62年10月2・3日

遺跡の概要 遺跡は、本川部落の北東部をかこむようにして、北側約600mまで遺跡範囲が広がる。周辺には、手藏田5遺跡・手藏田6遺跡・桜林遺跡・早稲田遺跡等が隣接して存在している。標高6.2~6.5mを測る。包蔵地調査カードには、本川部落の白山神社東側畠地に広範囲に土器片が散布していると記載されている。

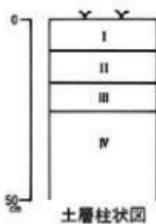
今回の遺跡詳細分布調査は昭和63年度県営は場整備事業（中平田地区）が実施されることになった。このことにより、同62年度に所管課である県農林水産部農地建設課より同事業範囲内の埋蔵文化財分布調査が出され、それを受け、同年10月に試掘調査を伴う詳細分布調査を実施することになったものである。試掘調査は明確な遺跡範囲を得るために、事業区域内に1m四方のテストピット（TP試掘穴）を39ヶ所行った。遺跡の広がりは、東西150m・南北200mの約30,000m<sup>2</sup>の範囲と考えられる。試掘したTPからは、地表下25~30cmに遺物包含層が存在し、須恵器・赤焼土器片が出土し、地山層である青灰色粘土層上面にはピット等の遺構が検出された。遺跡の性格は平安時代の集落跡と考えられる。



第29図 本川遺跡概要図



遺跡近景（西から）



TP 8 層序



出土土器

図版23 本川遺跡

(16) <sup>トキヅケイ</sup> 助作遺跡（遺跡番号 1652）

所 在 地 鶴岡市大字矢馳字上矢馳226番地 他

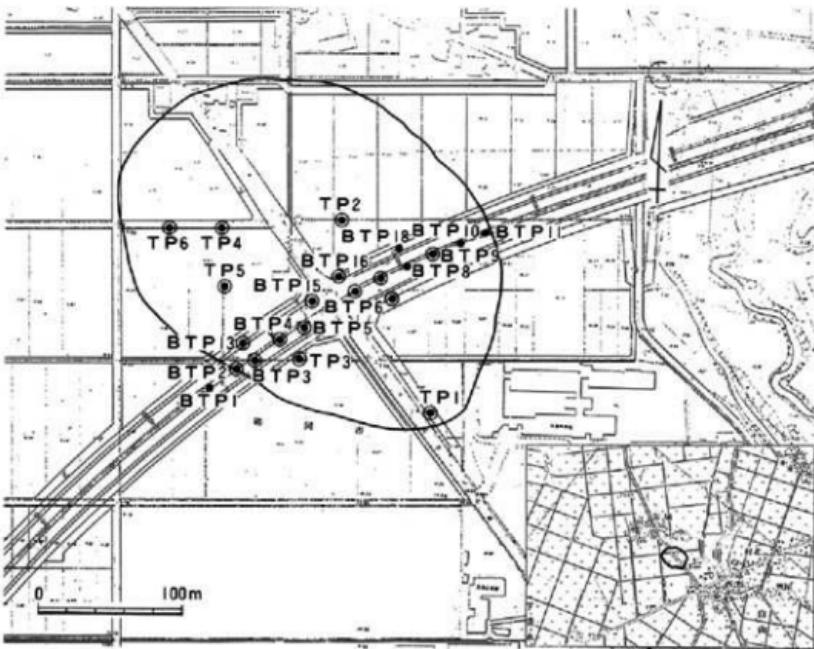
調 査 員 名和達朗・渋谷孝雄・阿部明彦

調査期日 昭和62年10月15日、同年11月18・19日

遺跡の概要 遺跡は、国道7号線の北西方、鶴岡市白山と同矢馳の間に所在し、標高14.5m内外を測る。遺跡の発見は、「即ち大正年間、湯田川、大山間県道工事の際矢馳助作の地から馳と称する須恵器が発見されたが……」と『大泉村史』に記されるように大部以前のことであり、その出土地点等の特定は現在不可能となっていた。

今回の遺跡詳細分布調査は、昭和63年度に施工予定の県営は場整備事業(鶴岡西部地区)ならびに国道7号線鶴岡バイパス建設との調整に資する目的から実施したものである。

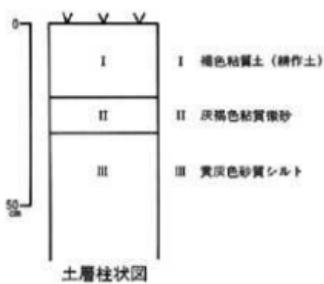
調査では、それぞれバイパス建設とは場整備に係る部分とに対象を区分し、バイパス部分では1×5mの小トレーナー(BTP 1~18)をセンター杭および幅杭等にそって入れBTP7を中心に12トレーナーで遺構・遺物を検出した。一方、バイパスの周囲は場整備に係る部分では、遺跡の範囲等の確認とその包蔵状態の確認を目的に、南北約300m・東西約200mの広範囲に1×1mのテストピット約50ヶ所を入れた。その結果、バイパスと県道の交差するあたりから北西方の部分に遺跡の中心域が想定できる等のことが明らかとなっている。



第30図 助作遺跡概要図



遺跡近景（北から）



土層断面



土層断面



出土遺物

### (17) 山田遺跡（遺跡番号 1655）

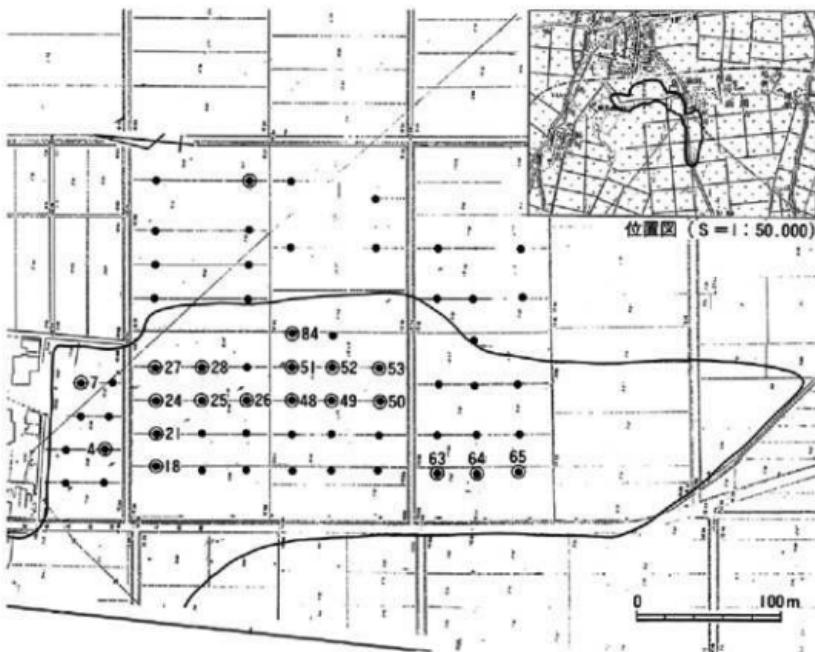
所 在 地 山形県鶴岡市大字山田字油田89番地 他

調 査 員 名和達朗・阿部明彦

調 査 期 日 B調査 昭和62年11月27・28日

遺跡の概要 遺跡は、JR羽越線大山駅の南側から山田部落の油田・小京田の西南方にかけて広範にひろがっている。遺跡の発見は、昭和31年頃に行われた水田の整下げ工事や暗渠管の埋設工事等に由来するが、その遺跡域等範囲の確認は本年度行った分布調査の結果により初めて明らかになったものである。標高13.5m前後を測り、矢跡A遺跡から北西方に延びる自然堤防上に立地する古墳時代～歴史時代にかけての大集落跡と推測できる。

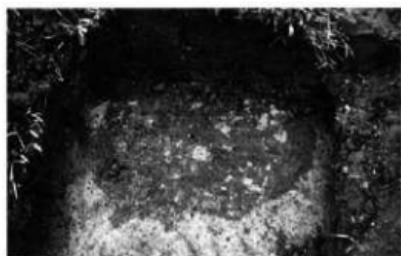
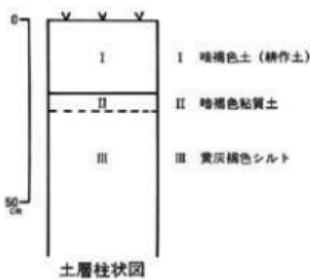
今回の遺跡詳細分布調査は、昭和63年度に予定される県営は場整備事業（鶴岡西部地区）との調整に資する目的から実施したもので、事業に係る遺跡域内部に86ヶ所のテストピットを入れた。その結果、南北500m・東西150mの細長い範囲に遺構・遺物の分布が認められ、從来予測されていた遺跡範囲を大きく上まわることが判明した。テストピット86ヶ所のうち19ヶ所から遺構・遺物を検出したが、一部を除いてその大方は平安時代に帰属するものである。古墳時代に係わる遺物は、調査域の北西方の一部分に限られ、その分布域がより北西方域にあることが理解される。



第31図 山田遺跡概要図



遺跡近景（南東から）



検出遺構



出土遺物



出土遺物

(18) 早房 A 遺跡 (新規)

所 在 地 山形県村山市大字富並字小滝地内

調 査 員 佐藤庄一・佐藤正俊・黒坂雅人

調査期日 A調査 昭和62年10月1日 B調査 昭和62年10月13日

遺跡の概要 遺跡は、村山市街地の北西部、最上川の左岸河岸段丘上に立地しており、標高84.3m前後を測る。地目は、水田・畑地・一部宅地で、畑地では若干遺物が散布しており、段丘面にそって東西に長く遺跡が延びている。

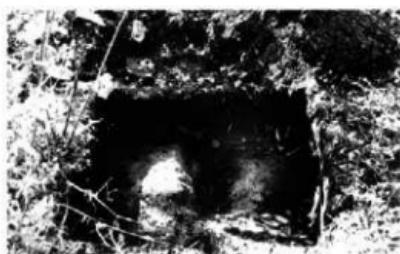
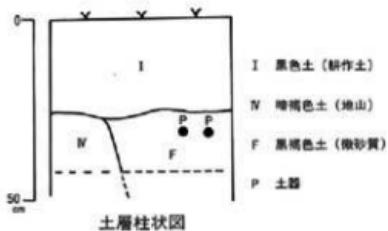
今回の調査は、本遺跡一帯にわたって、昭和63年度県営ほ場整備事業(富並地区)との調整に資する目的から実施したもので、事業地区内に限って $1 \times 1$ mを単位として25ヶ所にテスコピットを入れた。その結果、遺跡の範囲が従来よりも南側の最上川寄りになり、東西に長く延びるように確認された。遺構はTP16で住居跡がみられる覆土内より縄文時代中期の土器片がまとまって出土し、TP14では複式炉の袖部が検出される。遺物包含層は、南から北へと傾斜し厚く堆積しており、南側は浅くこの辺は自然堤防上に高まりとなって、住居跡の立地条件としては良好な場所といえる。遺物の分布は、南側で多く集まり北側で少なくなる。遺物の出土は、縄文時代中期中葉から末葉の土器を主体に、縄文時代後期中葉も出土している。石器は、磨石2・搔器1が発見されている。



第32図 早房 A 遺跡概要図



遺跡近景（北から）



遺物出土状態（TP 16）



土層断面



出土遺物

(19) 柳沢条里遺跡（遺跡番号 405）

所 在 地 山形県東村山郡中山町大字柳沢

調査員 佐藤正俊・安部 実

調査期日 B調査 昭和62年10月14~16日

遺跡の概要 遺跡は、中山町南西部の丘陵から平地に変わる位置にあり、平地に立地し標高100~105m前後を測る。地目は水田・畑地・農道で、金沢部落の北側一帯に遺跡が広がっている。今回の遺跡詳細分布調査は、昭和62年度から3ヶ年にわたって実施が予定されている昭和62年度工区の県営は場整備事業(最上堰第2地区)との調整に資するため調査を行ったものである。遺跡の範囲は推定 東西700×南北 600mであり、西側では条里跡とみられる小割の畦畔が確認される。

調査は事業実施区内に、東西方向に1×2.5mのトレンチ状に西側域を中心に42ヶ所の試掘箇所を設定した。その結果、遺構はTP1・TP2~22で溝跡や旧畦畔が検出し、とくにTP1では東西方向になる大溝が確認された。小溝は20~30cmの幅で南北に走っている。出土遺物は、大溝跡より縄文土器片が、TP12・24から須恵器片や中世陶器片がそれぞれ出土している。



第33図 柳沢条里遺跡概要図



遺跡近景（東から）

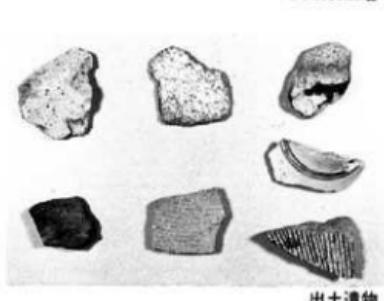
50m

X	X'
I	耕作土
II	暗褐色粘質土（小礫混）
III	暗青灰色粘質土（小礫混）
IV	暗青灰色細砂
V	暗青灰色細砂（炭化粒子）
VI	暗青灰色細砂（多量小礫混）
VII	暗青灰色細砂（暗灰色シルト混）
VIII	暗灰色細砂（炭化粒子）
IX	黑灰色細砂（炭化粒子）

土層柱状図



試掘坑土層



出土遺物

図版27 柳沢条里遺跡

(20) 赤岩遺跡（遺跡番号 1520）

所 在 地 山形県西置賜郡飯豊町大字高峰字赤岩3976～3977

調 査 員 佐藤庄一・渋谷孝雄

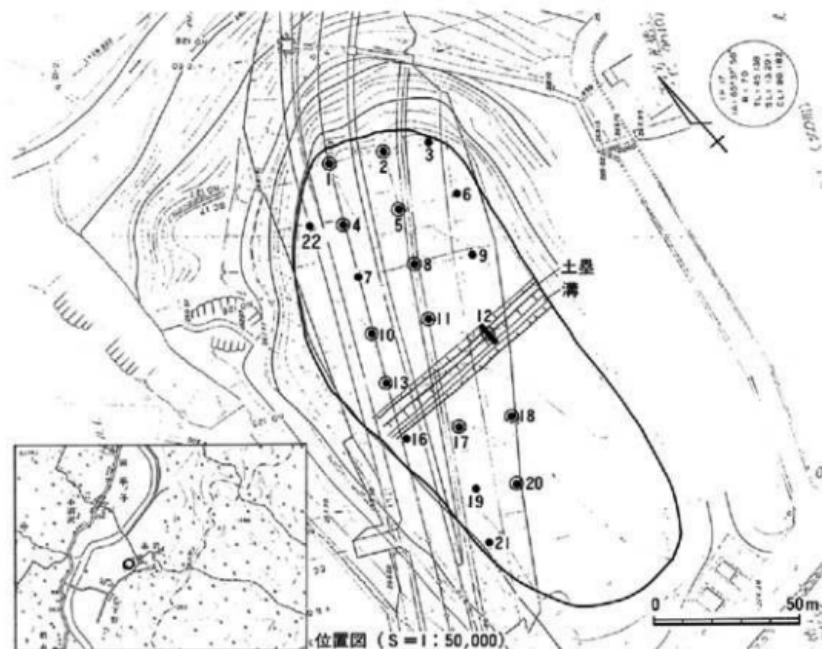
調 査 期 日 B調査 昭和62年10月19・20日

遺跡の概要 遺跡はJR東日本米坂線手ノ子駅の南方3.8kmに位置し、白川の形成した舌状に張り出す河岸段丘上に立地する。標高は275mをはかり、地目は山林となっている。

この舌状に張り出す長さ100m・幅40mの台地上の中央部に、東西に走る上場幅3.5m・深さ約1mの溝があり、その北側に上場幅60cmの盛土が観察される。遺跡は昭和42年度に山形県総合学述調査会によって試掘調査が行われ、縄文時代の石器が報告されている（山形県総合学述調査会 1970年）。

今回の遺跡詳細分布調査は農免農道建設との調整に資するために行われたもので、計画路線内に計22ヶ所の試掘溝を設定して、地山まで掘り下げを行うとともに、溝の略測も行った。試掘溝では12ヶ所から縄文土器や石器・ピット・溝跡などの遺構や遺物が検出され計画路線のうち約2,100m<sup>2</sup>が遺跡内にかかることが明らかとなった。

遺物は縄文時代中期の土器と石器であり、台地中央を限る溝に関連すると考えられる遺物は認められなかった。



第34図 赤岩遺跡概要図



遺跡近景（北から）



遺構検出状況



基本層序



出土遺物

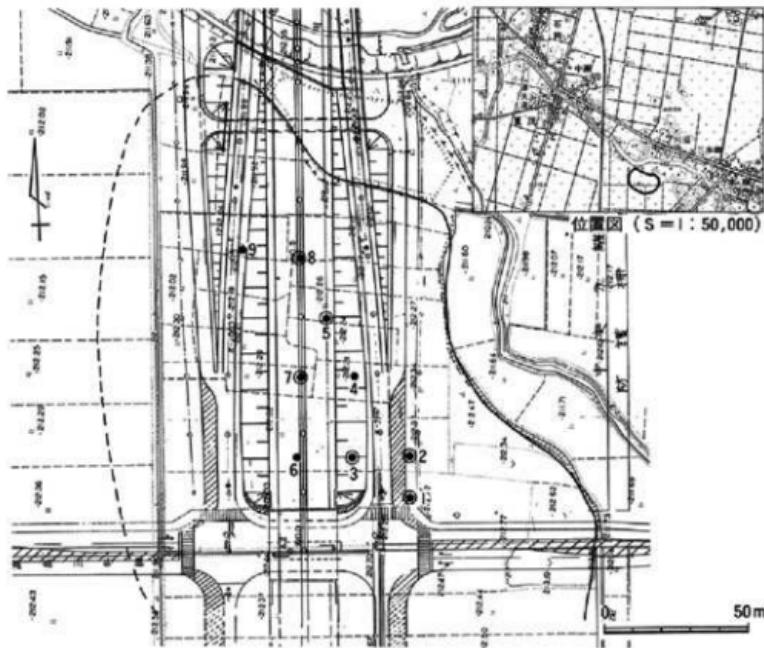
(21) 寝鹿遺跡（遺跡番号 1304）

所 在 地 山形県東置賜郡高畠町大字夏茂字上寝鹿

調 査 員 佐藤正俊・長橋 至

調 査 期 日 B調査 昭和62年10月27日

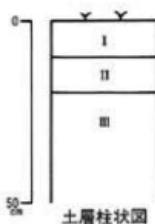
遺跡の概要 遺跡は、高畠町一本柳地区の南側 約400m、和田川左岸の自然堤防上に立地し、標高は約 213m を測る。今回の調査は、国道13号線南陽バイパス建設予定路線内について調査可能な地点 8ヶ所について試掘区を設定し、遺跡の状況を探った。本遺跡は、昭和61年度に、国道と交叉する県道改良事業高畠～川西線工事に係って県教委が緊急発掘調査を実施している。今回は、その地点と隣接する同一遺跡の分布調査である。調査の結果、和田川旧河道により限られる東～北側の遺跡範囲及び県道高畠～川西線との交差地点（すなわち工事用坑 N1～7）までの路線幅内のうち、昭和61年調査区に近い南東部及び中央部で遺構・遺物が検出された。遺構は、古墳時代の土師器を覆土内に良好に遺存する土壤・大溝状の落ち込みが確認され、遺物包含層も全体に比較的良好に残ることが明らかとなつた。遺物は古墳時代の土師器を中心で、やや磨滅が著しいものの、量的には多量の出土が予想される。和田川寄りの北側は極端に遺構・遺物が希薄となる傾向がある（山形県埋蔵文化財調査報告書 第112集 寝鹿・契約塙遺跡発掘調査報告書参照）。



第35図 寝鹿遺跡概要図



遺跡近景（南西から）



- I 暗褐色土
- II 暗黒褐色シルト（包含層）
- III 実灰色シルト



土層断面・土坑検出状況（TP 8）



土層断面（TP 7 西側排水溝壁面）



出土遺物

### 3 C 調査実施遺跡

#### (1) 前田遺跡 (遺跡番号2004)

所 在 地 山形県酒田市大字保育字前田79他

調 査 員 野尼 侃・名和達朗

調 査 期 日 昭和62年12月15・16日 (延べ2日)

遺跡の概要 本遺跡は羽越本線本橋駅より南方約7km、越橋部落を囲むように位置する。

羽越本線の東側に大きく範囲が広がる。標高7.7mを測り、地目は水田である。

本遺跡は、昭和35年度に実施した県内埋蔵文化財包蔵地調査で、部落北東で丸木舟が発見されたことや、部落南側の水田からは須恵器横瓶や破片が多量に散布していることにより昭和36年3月に山形県教育委員会から発刊された「山形県遺跡地名表1959年」に記載登録された遺跡である。昭和62年度県営パイプ幹線設置事業が実施されることとなり、最上川右岸上地改良事務所より分布調査依頼が県教育委員会へ提出された。このことを受けた県教育委員会では、先に実施された昭和63年度県営ほ場整備事業に伴う遺跡詳細分布調査結果を検討し、遺構・遺物の密集区域を図示し、パイプ幹線事業との係わりを協議した。

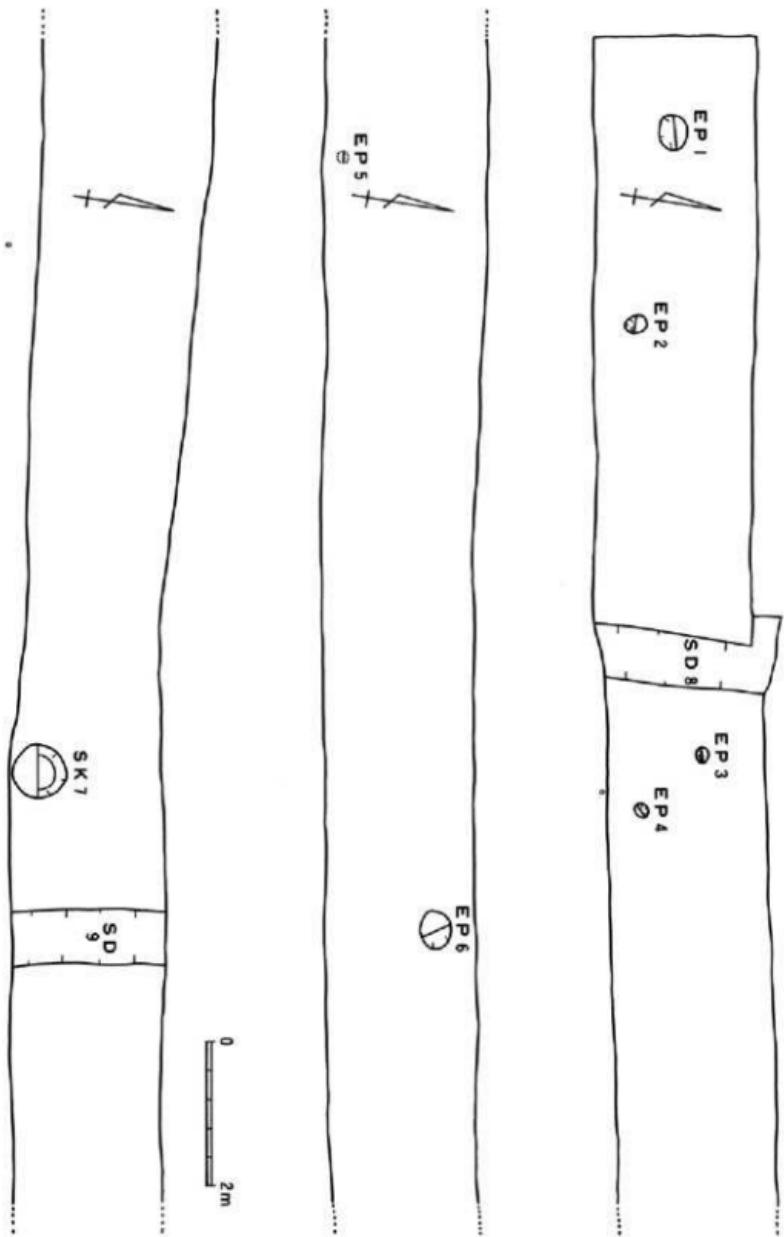
協議では、設置されるパイプ幹線の位置と規模を確認し、本遺跡内の遺構・遺物の密集区域内に係る部分をC調査対象として実施することで合意した。



第36図 前田遺跡位置図 (1 : 50,000)

第37図 前田遺跡概要図





第38図 前田遺跡 A トレンチ造構配置図

調査は、越橋部落の東側に存在する密集区域に幅3m、長さ50mのトレンチ、南側に存在する密集区域に幅3m、長さ7mのトレンチをパイプ幹線計画線に合わせて設置した。計画幅(3m)を重機で表土を除去し、遺構・遺物の検出作業を行なった。また、トレンチの壁面を観察し、基本層序を確認した。地表下20~38cmに茶褐色粘質土の遺物包含層の存在や、同38cm下には遺構の堀り込みが始まる青灰色砂質土層が認められた。遺物包含層での出土遺物は、須恵器・赤焼土器、中世陶器、木片等である。重機で粗堀したトレンチは、画整理後遺構・遺物の精査、出土遺物の地点を記録した。

検出遺構 越橋部落南側に設置したトレンチをAトレンチと呼称し、重機により粗堀後、面整理作業を行なったところ、建物跡等に組み合わざることが出来なかつた柱穴6個、溝状遺構2条、土坑は径約40cm、深さ35cmで、炭化物が充满していた。

Aトレンチでの遺構検出状況では、トレンチ内に間断なく遺構が検出されるが、東方では、地盤が低くなりそれに伴ない遺構の検出が稀薄する。出土遺物は磨滅が著しい。

越橋部落東側に設置したBトレンチでは、耕地整理以前の側溝跡を検出、覆土中より、近世木製品の下駄が出土した。

2 本のトレンチ調査からの判断であるが、本遺跡の性格は、平安時代末頃から中世にかけての集落跡と考えられ、時期は11~13世紀に当たられる。



前田遺跡近景(東から)

図版30 遺跡近景(東から)



前田遺跡調査区（B区）近景（東から）



前田遺跡調査区（A区）近景（西から）

図版31 前田遺跡

(2) 下長橋遺跡 (遺跡番号 2182)

所 在 地 山形県飽海郡遊佐町大字小原田字村西

調 査 員 野尻 侃・伊藤邦弘

調 査 期 日 C調査 昭和62年10月28~30日、11月4・5日

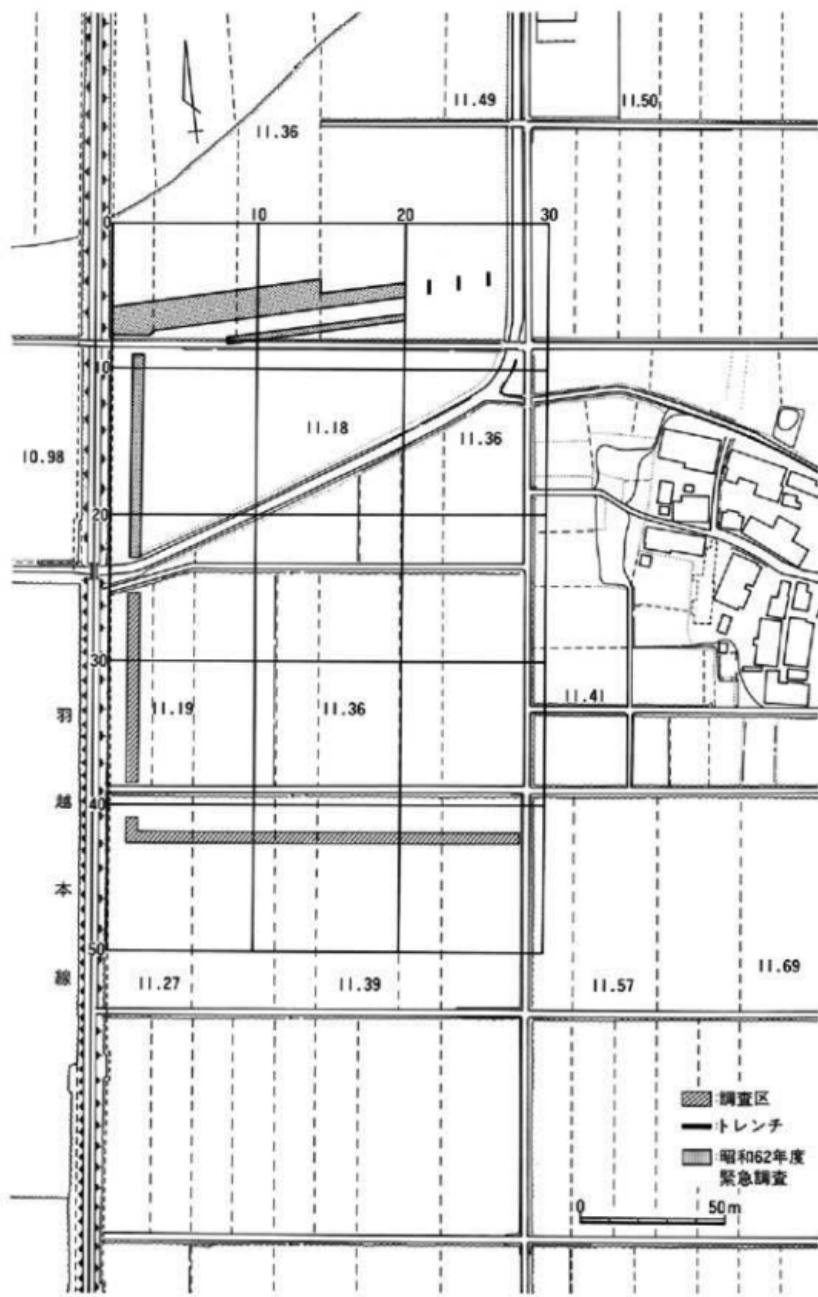
遺跡の概要 遺跡は、羽越本線遊佐駅の南 約800m、遊佐町下長橋部落の西側に位置し、標高は約11mを測る。地目は、羽越本線の軌道が走る他は水田で占められる。

本遺跡については、昭和62年度県営灌漑排水事業に係る緊急発掘調査を実施している。また昭和63年度施工予定の県営は場整備事業、県道藤崎遊佐線新設事業との調整に資するため遺跡詳細分布調査Bを実施している。これらの調査の結果、遺跡範囲は東西 約300m 南北约450mの約135,000m<sup>2</sup>に及ぶことが判明した。遺跡の性格は、平安時代から中世にかけての集落跡であることが考えられている。

今回の調査は、この地区に県営は場整備事業(月光川左岸地区)が実施されることになり事前に分布調査を行ったところ、遺跡は地表面より深く、今回の事業では一部を除き破壊されないことがわかった。そこで関係諸機関と協議を行い、遺跡破壊の免れない排水路においてのみ分布調査C対応として調査を行うことになった。



第39図 下長橋遺跡概要図

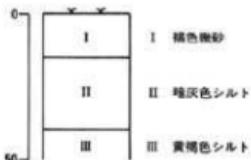


第40図 下長橋遺跡グリッド配置図

**遺跡の層序** 今回調査を行った地区の基本層序は、主に微砂とシルトからなり、深さは25cm~40cmを測る。地山は起伏があり、さらに深くなる所もある。この箇所のII層には有機物を含み、一部泥炭化しているところもある。遺構検出面はⅢ層である。遺物の包含層は、ほとんど認められない。なお、緊急発掘調査及び分布調査を行った北側とは異った様相を呈する。

**検出遺構** 今回の調査で検出した遺構には、建物跡・土

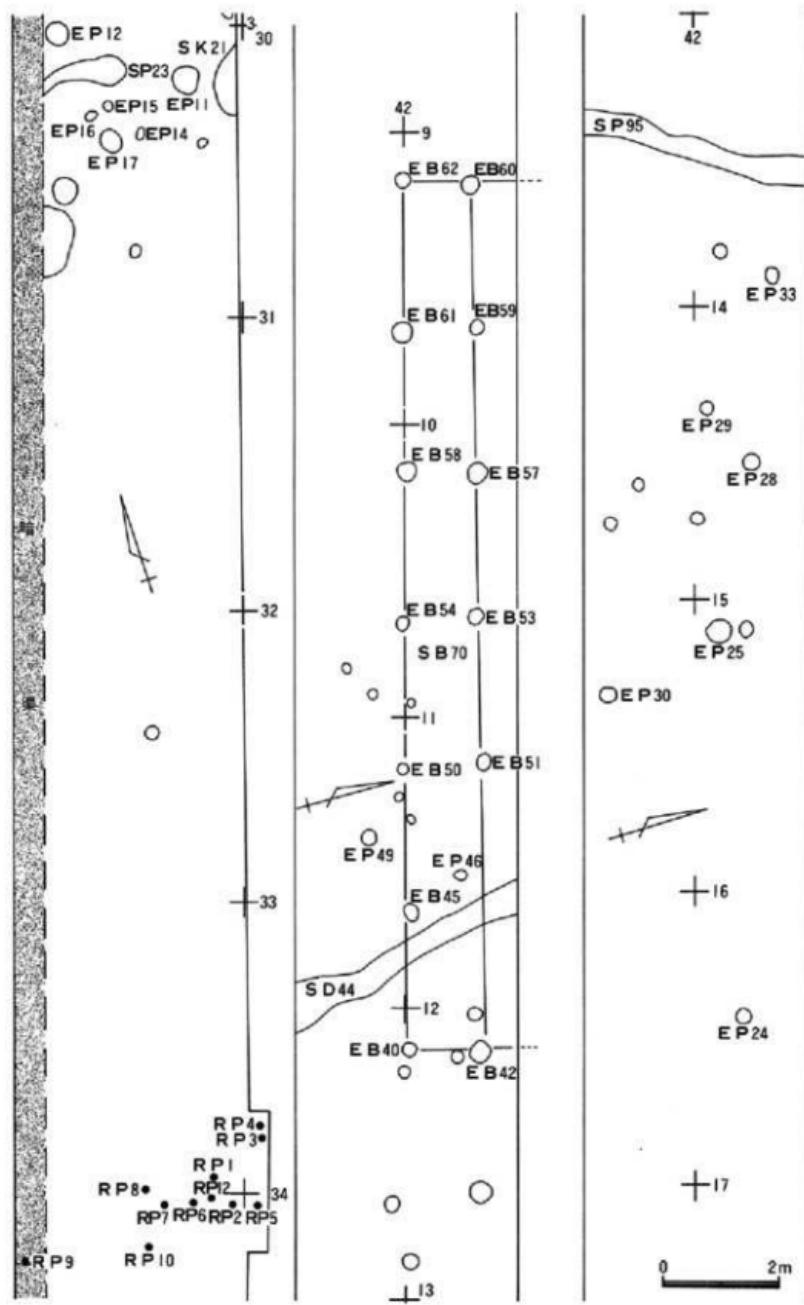
壌・溝状遺構・ピット等がある。しかし 幅4mのトレンチ調査のため、遺構のまとまりを把握するのは困難であった。東西トレンチのはば中央で検出したSB70建物跡は、廂付きの東西棟と考えられるが、北側に延びるであろう母屋は、調査区外になるため全体の規模は不明である。検出したのは南廂部にあたることが推測される。廂部は桁行6間あり、1間約2.5m、梁行は1.2mを測る。柱穴は約40cmの円形を呈し、約20cm掘り込まれている。覆土は主に黒色粘質土からなる。東西トレンチからは、その他にピット32、溝状遺構2を検出している。南北トレンチは、暗渠配管のため一部破壊を受けているが、土壌2、溝状遺構1、ピット20を検出している。遺構は、全体的に北側へ集中する傾向が認められる。



第41図 下長橋遺跡土層柱状図



図版32 下長橋遺跡調査風景



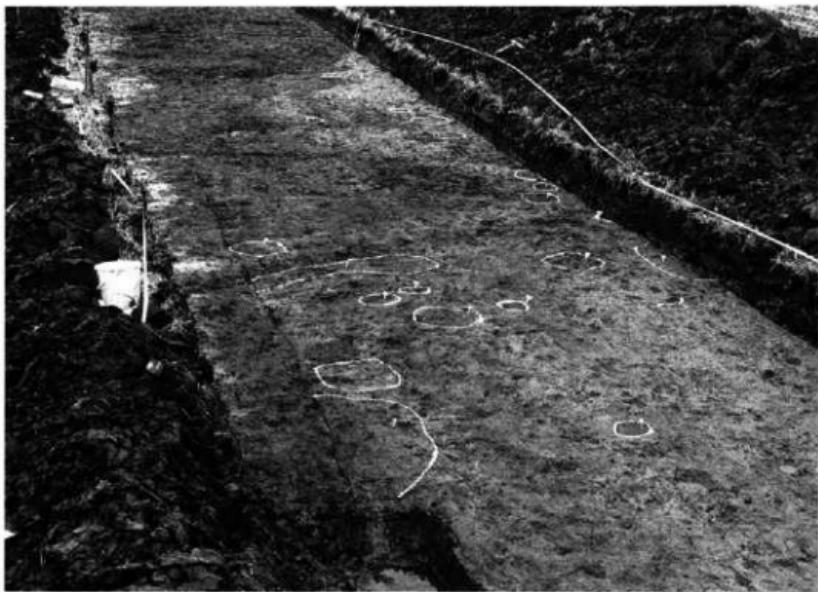
第42図 下長橋遺跡遺構配置図



下長橋遺跡東西トレンチ全景



図版33 下長橋遺跡南北トレンチ全景



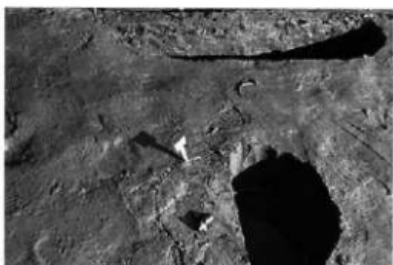
下長橋遺跡遺構検出状況



図版34 下長橋遺跡遺構掘り下げ状況



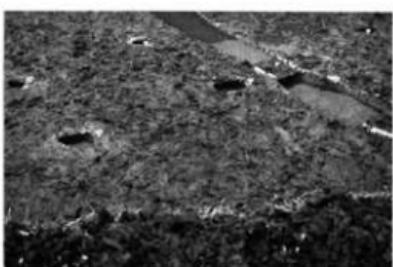
E P I2. S D23



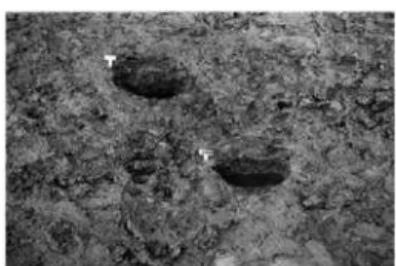
E P II. S K21



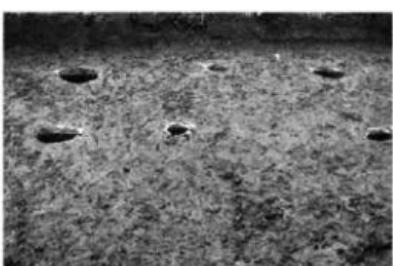
E P I4.15.16.17



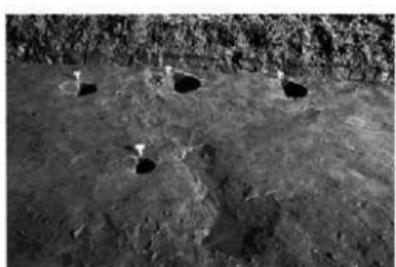
S D44. E B45. E P 46.47.49



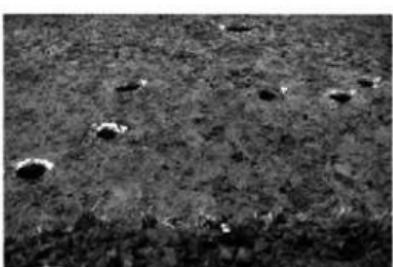
E P 63.64



E B 55.56.57.58.59.61



E P 3.4.5.6



E B 50.51. E P 47.48.52.63.64

図版35 下長橋遺跡検出遺構

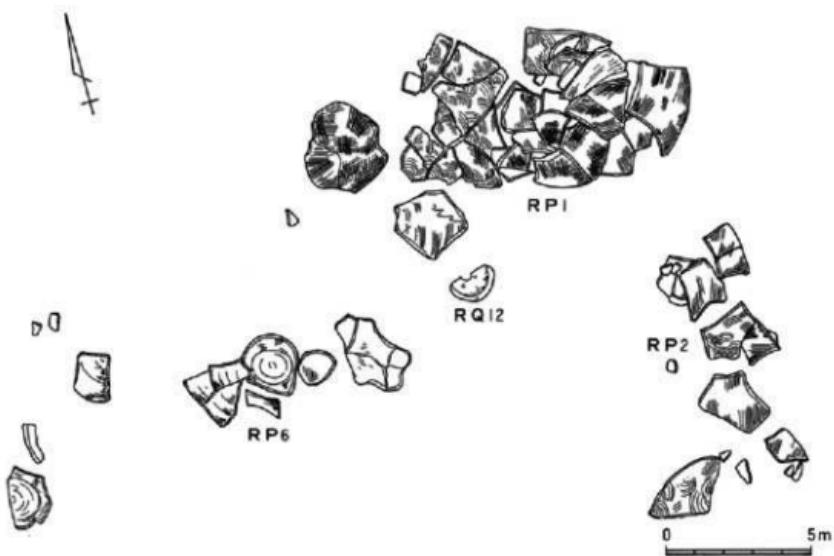
**出土遺物** 今回の調査で出土した遺物は、整理箱に2箱である。土器・土製品・石製品・木製品がある。第47~49図には主な器型の実測図を掲載した。

〔須恵器〕 蓋・坏・高台付坏・壺・甕がある。坏はすべてヘラ切りで、切り離し後はナデ調整を施す。口径約13cm、底径8.4cm、器高約3cmを測る。高台付坏は、体部が直線的に立ち上がるるもの(4・5)と、中央に稜を持つもの(3)の2種類認められる。いずれもヘラ切りで、切り離し後はナデ調整を施している。図化復元可能なものは、各1点である。3は口径12.2cm、底径8.2cm、器高4.2cm、胎土は粗砂粒混入、焼成は良好、色調は青灰色である。底部には「倭女」の墨書きがある。4は口径15.2cm、底径7.2cm、器高8cm、胎土は粗砂及び小礫混入、焼成は良好、色調は黒灰色。外面体部中央に沈線状の筋がはいる。壺は破版資料のみで全体の形は不明である。6・8は壺の口縁部と体部下半である。胎土、焼成が違い別個体である。外面はロクロナデ、内面は6がロクロナデ、8がヘラ状工具で不整方向へのナデがみられる。甕はタタキ、アテ痕の違いから数種類みとめられる。10の甕は口径20cm、器高47.4cm、底部は丸底でタタキ締めの後ヘラ状工具で放射状のナデが加えられている。最大径は体部上半に置き41.8cmを測る。器厚は7mm~1cmである。頸部は強く外反し、口縁は直線的で短くロクロ整形を施す。外面は、条線状のタタキ目が残り、部分的に左方向へのナデが加えられる。肩部には灰かぶりと灰白色の自然釉が付着し、右下へ釉だれがみられる。また体部上半に焼成時のひっつきがある。内面は上部に同心円文、下部に横方向の条線状アテ痕が残る。底部の内面には、口から入り込んだ灰が付着する。胎土は粗砂粒混入、焼成は良好、色調は青灰色である。その他に蓋があるが、破片資料である。

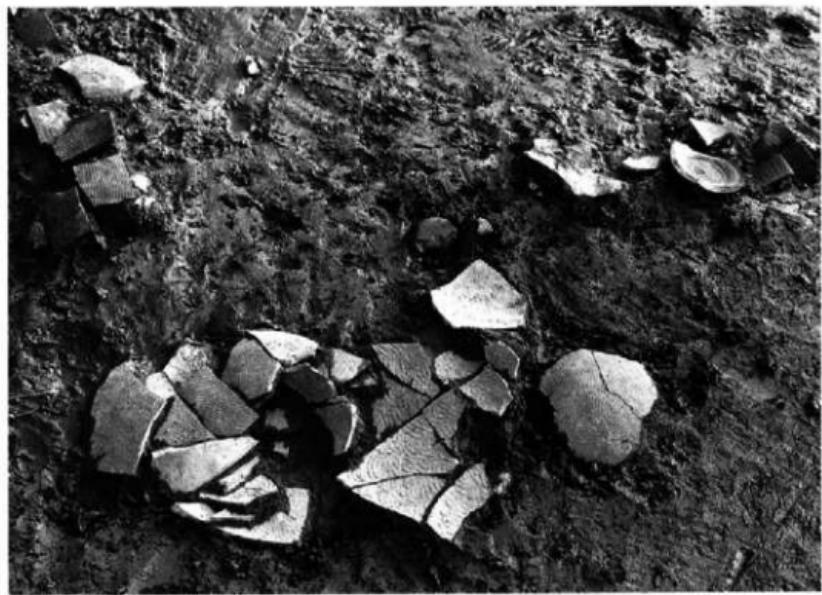
〔赤焼土器〕 今回の調査で出土した遺物中最も多く、坏・甕がある。7は復元口径28.4cm、器厚8mmを測る甕である。口縁部は内外面ともロクロナデ、体部内面はヘラナデによる。胎土は粗砂粒混入、焼成は良好、色調は赤褐色を呈する。

〔中世陶器〕 9は珠洲焼系の摺鉢である。復元底径14cmを測る。内面には3cmあたり13本の櫛歯結束による卸し目を施す。摩減して滑らかな様子は使用頻度によるものと思われる。底部は静止糸切りの痕跡を残し、糸目方向と異なる草木状の圧痕をとどめる。胎土は砂粒混入、焼成は良好、色調は灰色である。

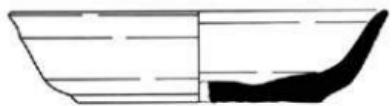
〔その他の遺物〕 11は土錘である。長さ8.2cm、最大径4.4cm、孔径1cmを測る。12は紡錘車である。材質は砂岩と思われる。断面形は台形を呈する。復元径は6cm、孔径1cmを測る。木製品には漆を塗った板がある。厚さ6mm、現存長11.5cmを測る。表裏面に黒漆と赤漆が塗り分けられる。器形は不明である。ここにあげた遺物の大半は、南北トレンチ2~34グリッドに集中して出土したものである。



第43図 下長橋遺跡 R P1.2.6. R Q12出土状況



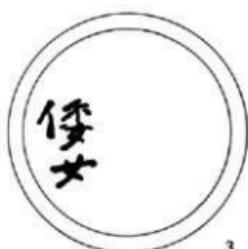
図版36 下長橋遺跡 R P1 出土状況



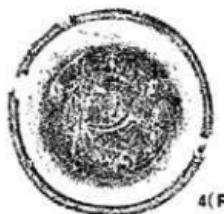
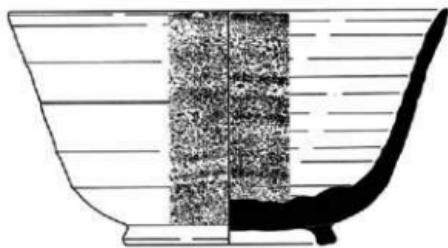
1(RP13)



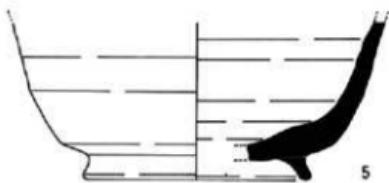
2(RP7)



3



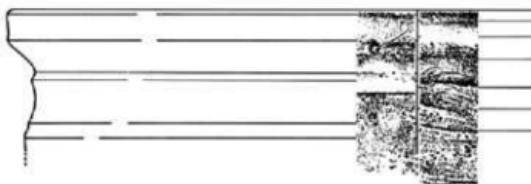
4(RP6)



5



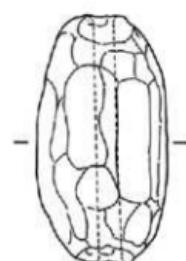
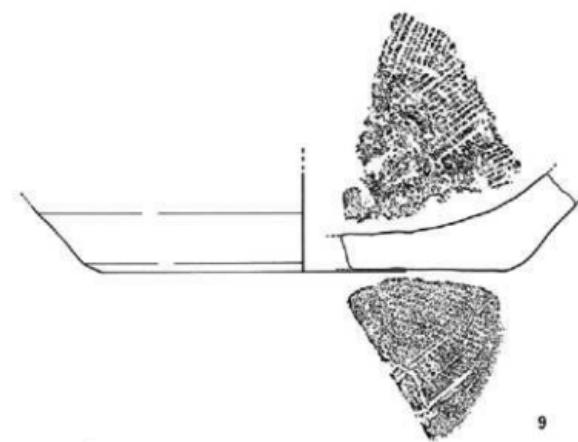
6



7



第44図 下長橋遺跡出土遺物（I）

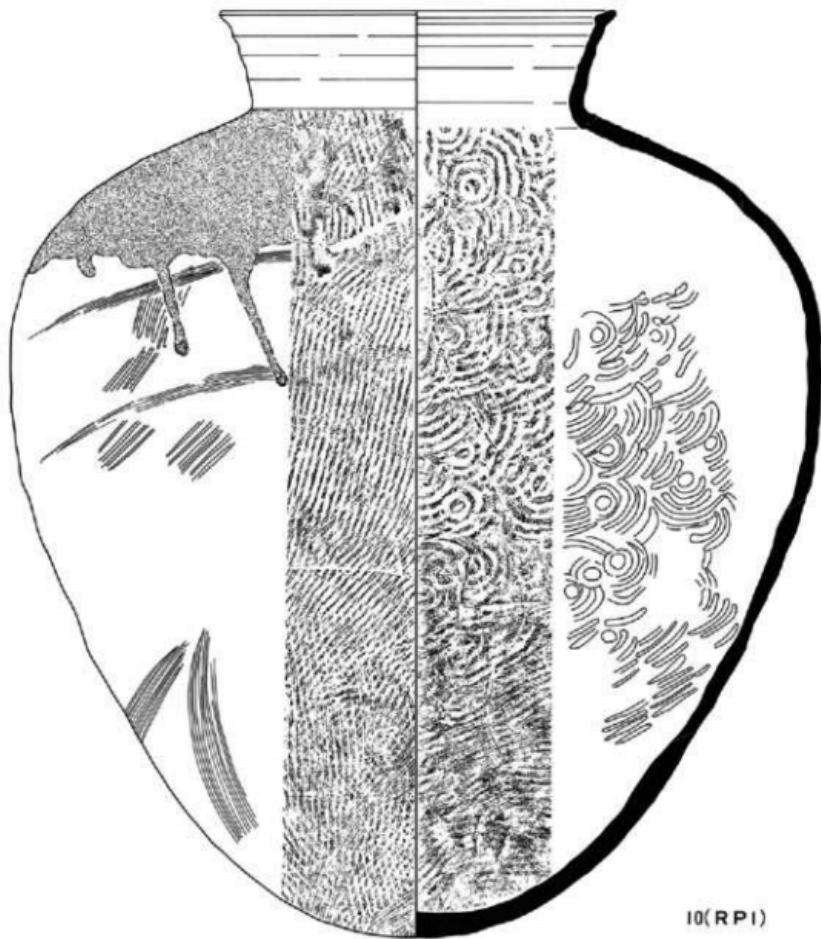


11(RP3)

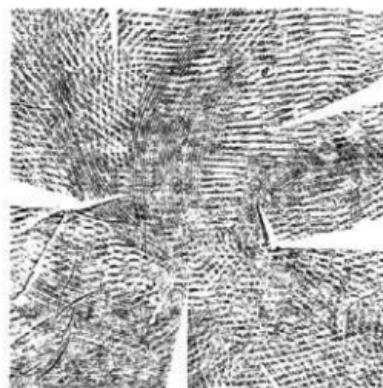


12(RQ12)

0 5cm



10(RPI)



0 5cm

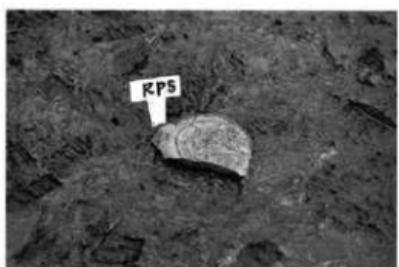
第46図 下長橋遺跡出土遺物（3）



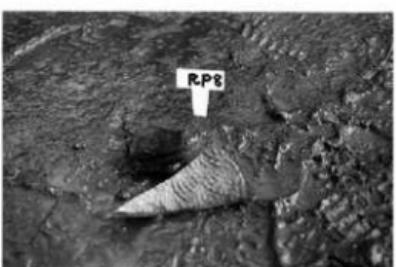
R P 2



R P 3.4



R P 5



R P 8



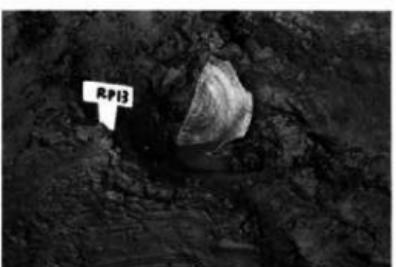
R P 9



R P 11

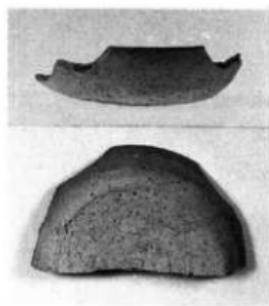


R Q 12

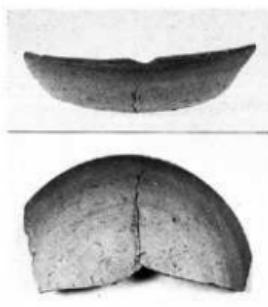


R P 13

图版37 下長橋遺跡遺物出土状况



1



2



3



5



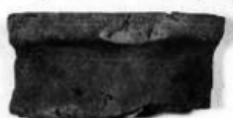
6



4



8



7



9



11



12

圖版38 下長橋遺跡出土遺物 (1) ( $S = \frac{1}{2}$ )



図版39 下長橋遺跡出土遺物（2）（ $S = \frac{1}{2}$ ）



図版40 下長橋遺跡遺物出土状況

まとめ 本遺跡は、昭和51年に行われた遺跡確認調査により、当地区内に広がる平安時代の集落跡として台帳に記載登録(県遺跡番号 2182)された遺跡である。今回の調査は、昭和62年度の県営ほ場整備事業(月光川左岸地区)の中で、遺跡破壊の免れない排水路部分について分布調査C対応として行ったものである。調査区は東西13.5m、南北70m、幅4mの総面積 820m<sup>2</sup>である。

検出した遺構には、掘立柱建物跡・土壤・溝状遺構・ピットがある。建物跡は調査区の関係上一部のみの検出となり、その規模・性格等においては不明な点が多い。また他の遺構は、調査区内をみる限り全体としてのまとまりを欠く。出土遺物は、須恵器・赤焼土器・中世陶器・土製品・石製品・木製品がある。中でも赤焼土器の占める割合が大きく、器形も酒田市上ノ田遺跡と類似する点が見いだされる。

今回の調査では、広範囲な遺跡の中の一部調査にとどまったが、出土遺物や立地条件等から、隣接する遺跡との関連もうかがうことができた。本遺跡を含め、隣接する前田・地正面・塙田・佐渡遺跡等は、一連の微高地上に点々と営まれた集落跡であることが考えられる。時期的にも平安時代前半9~10世紀代のものと考えられる。なお、今年度緊急調査を行った北側については、平安時代から中世にかけての集落跡の性格をもっており、時間的な幅や各遺跡の関連も今後の課題となるところである。

(3) 水尻遺跡（遺跡番号2179）

所 在 地 山形県飽海郡遊佐町大字小原田字水尻18・19・24他

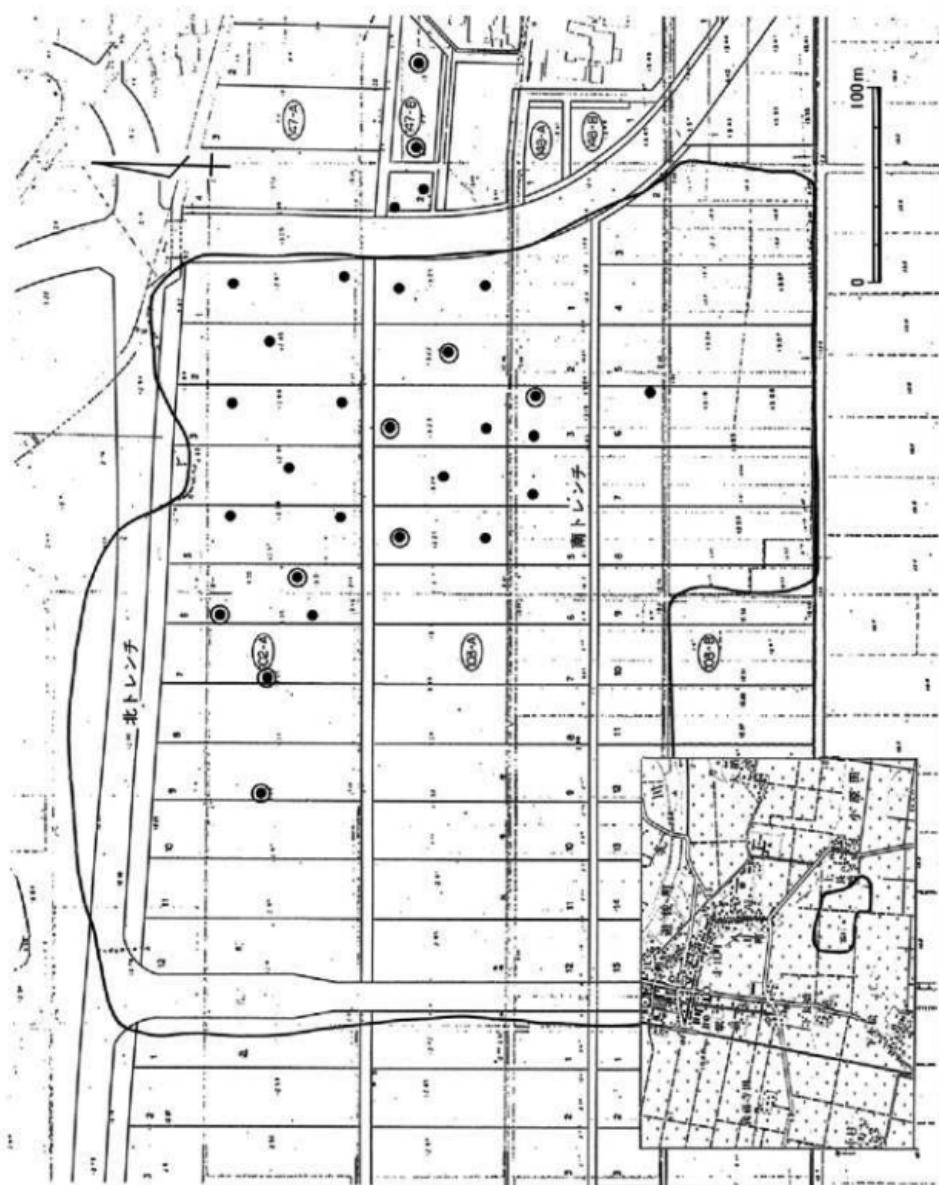
調 査 員 野尻 侃・黒坂雅人

調査科目 昭和62年11月9～20日（延10日）

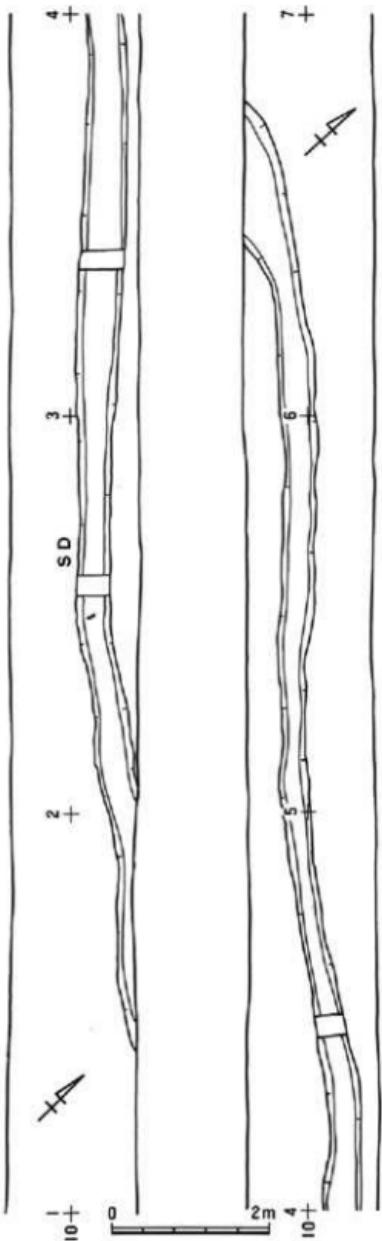
遺跡の概要 本遺跡は、JR羽越本線遊佐駅より南東約1kmに位置し、月光川左岸の高さの低い河岸段丘状の水田地帯に立地する。標高は約11mを測る。遺跡は、上長橋部落と下長橋部落の東西に広がる範囲で、面積は東西約430m、南北250m、約98900m<sup>2</sup>が推定される。地目は水田・畑地である。調査は昭和62年度補正予算に伴う県営は場整備事業が計画され、県農林水産部農地建設課より県教育委員会へ遺跡詳細分布調査依頼が出され、これを受けた文化課では、昭和62年10月14・15日の2日間分布調査を実施し、11ヵ所の試掘調査を行ない、6ヵ所から須恵器・赤焼土器の出土を認め遺跡の範囲を明示した。この報告を受けた最上川右岸土地改良事務所では、は場計画の削平工法を、現地表面下20cm以上を削平しない工法を取り、遺跡に影響がおよばないとした。このことにより、文化課では、事業における深堀りされる排水路部分を対象にC調査で対応することとなり、また、遺跡北辺には、庄内広域農道と接して県営灌漑排水事業も同時施工されることとなり、この地域もC調査で対応し、調査を同時に進めた。



第47図 水尻遺跡位置図 (S = 1 : 50,000)



第48図 水尻遺跡概要図



水尻遺跡土層



溝状遺構



溝状遺構断面



溝状遺構出土下駄

第49図 南トレンチ溝状遺構

図版41 水尻遺跡検出遺構

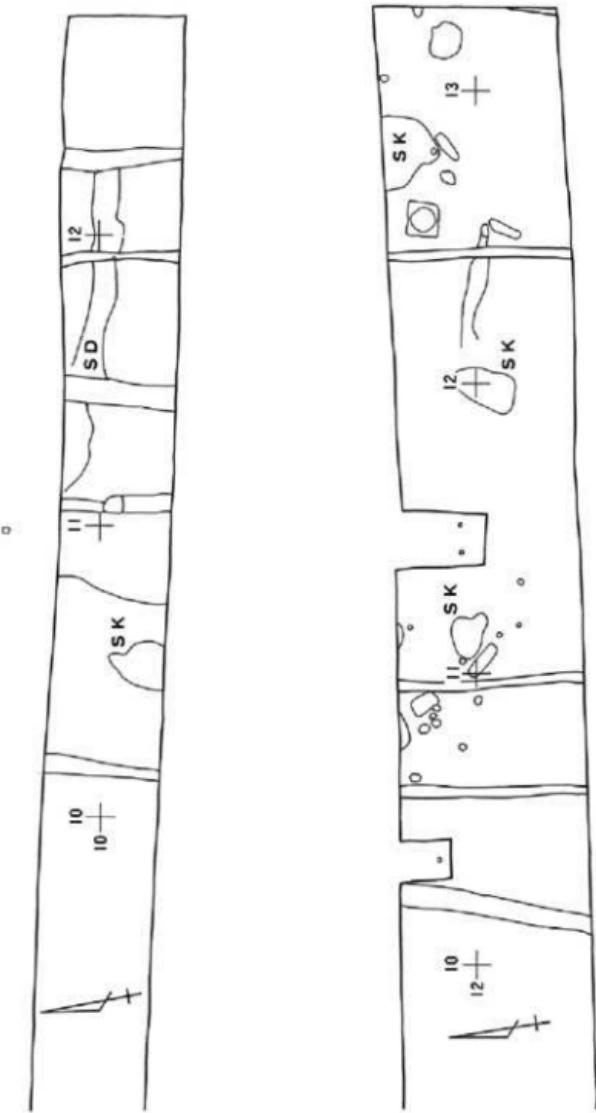


遺跡近景（東から）



B トレンチ近景

図版42 水尻遺跡



第50図 水尻遺跡北トレンチ遺構配置図 ( $S = 1 : 60$ )



北トレンチ



南トレンチ

図版43 水尻遺跡



北トレンチ調査風景



南トレンチ調査風景

図版44 水尻遺跡

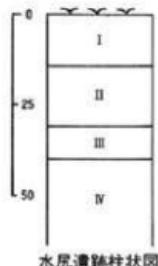


溝状遺構検出状況



溝状遺構検出状況（拡大）

図版45 水尻遺跡



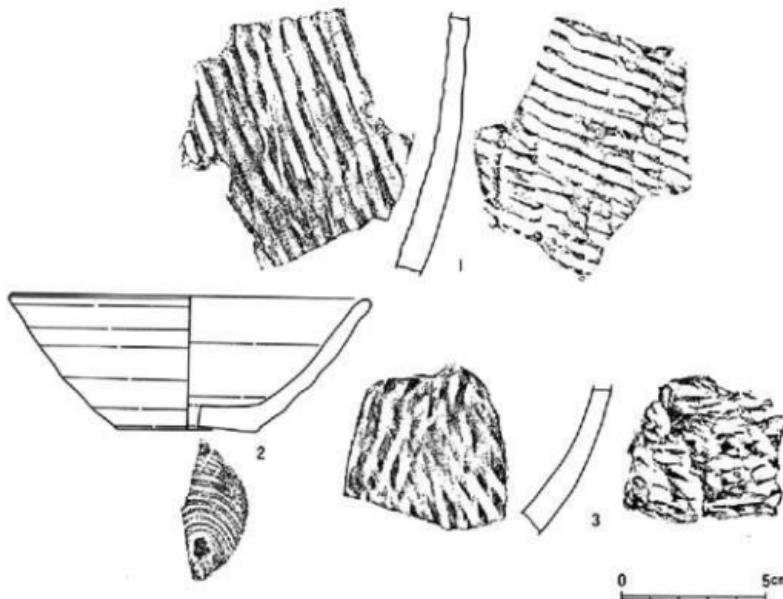
褐色耕作土  
黒褐色砂質土  
明褐色砂質土  
明褐色砂



調査区近景（南から）

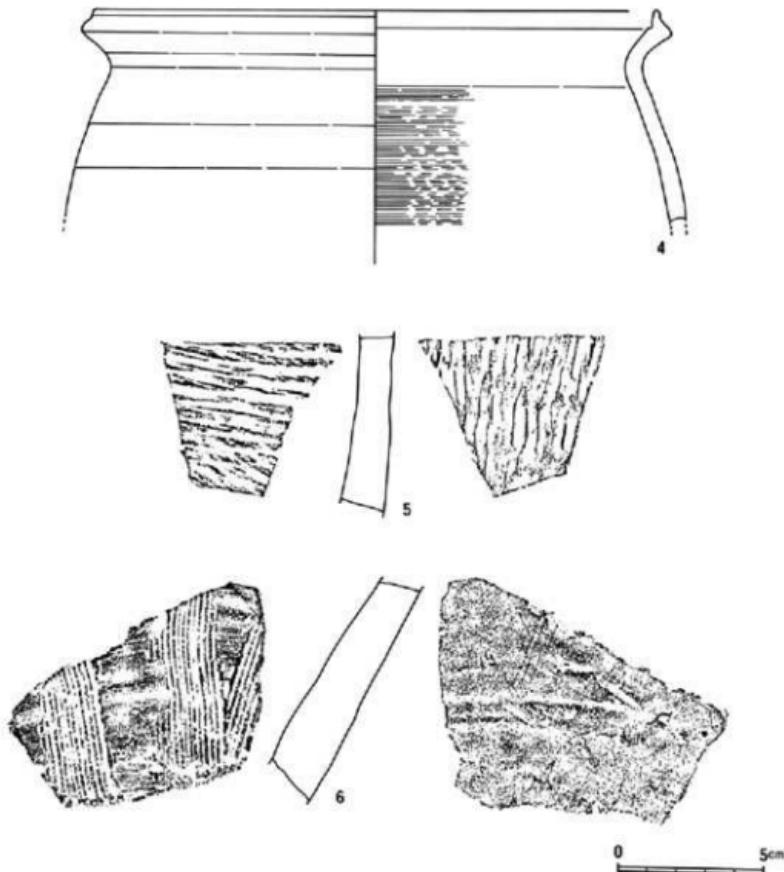


図版46 水尻遺跡

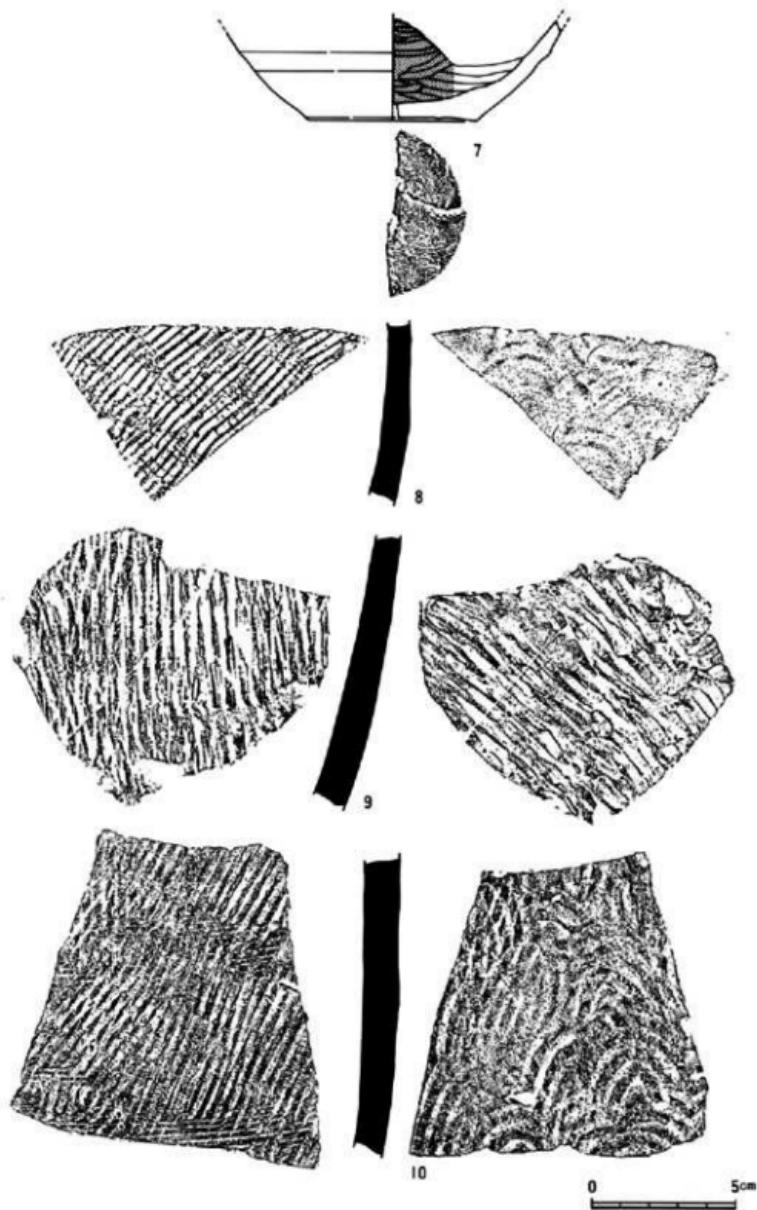


第51図 水尻遺跡遺構内出土土器

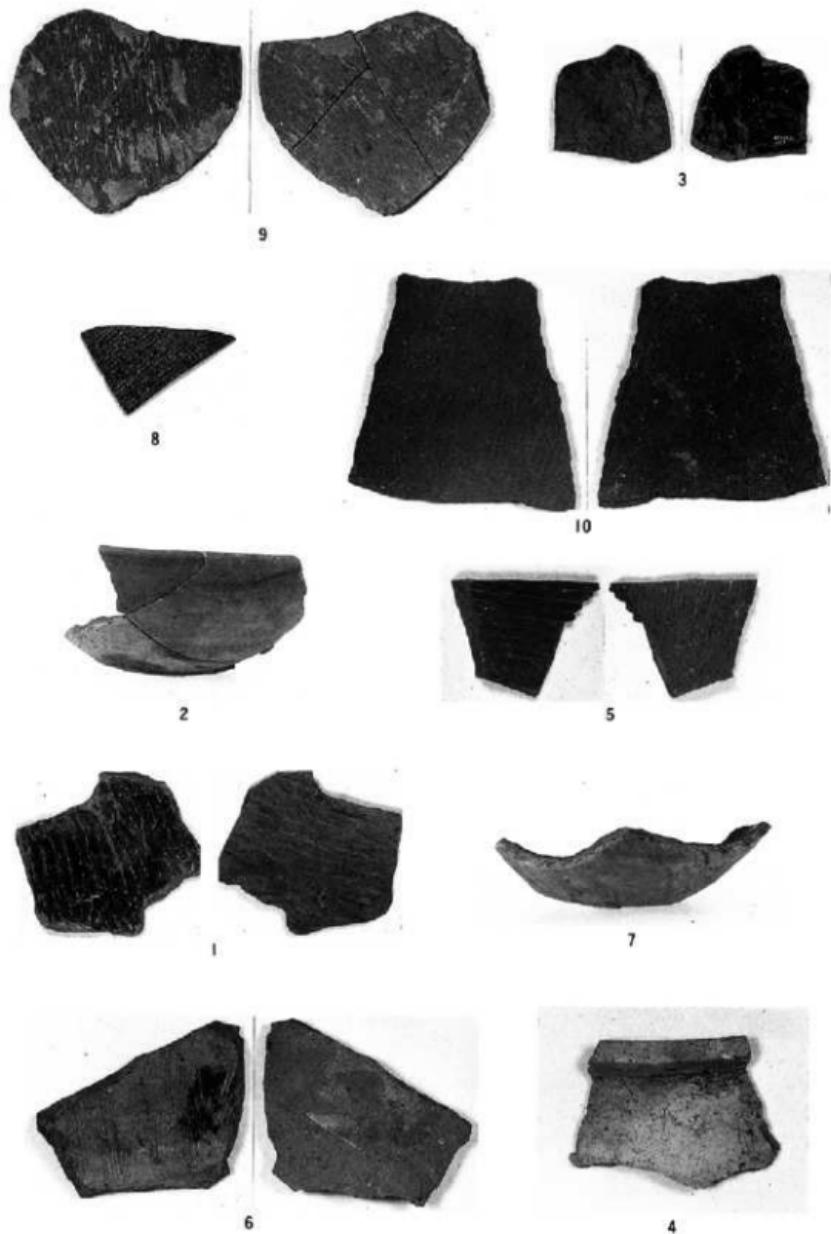
調査は前半を土場整備事業に係る排水路部分（南トレンチ）から実施することとし、調査は計画幅（2 m）を重機で表土を除去し、遺構・遺物の検出作業を行なった。また、トレンチの壁面を観察し、基本層序を確認した。地表下28~35cmに明褐色砂質土の遺物包含層の存在や、同35cm下には遺構の掘り込みが始まる明褐色砂層が認められた。遺物包含層での出土遺物は、須恵器・赤焼土器・中世陶器・木製品である。重機で粗轍したトレンチは、面整理後遺構・遺物の検出地点を記録した。また県営灌漑排水事業に係る部分（北トレンチ）では、計画幅（2 m）を重機により表土を除去し南トレンチと同様に面整理作業を進めた。遺物包含層での出土遺物は、内黒土師器・須恵器・赤焼土器・中世陶器である。



第52図 水尻遺跡包含層出土土器(1)



第53図 水尻遺跡包含層出土土器(2)



圖版47 水井遺跡包含層出土土器



図版48 水戻遺跡調査風景

検出遺構 ほ場整備事業に係る南トレンチにおいては、トレンチ中央部をトレンチに添つて幅25~30cm、深さ15~25cmの溝状遺構が18mの長さで検出された。溝状遺構の覆土は、単一層である。暗褐色粘質土層で、部分的に炭火物粒子を含む。出土遺物では土器片は検出されず、近世下駄片が覆土中より出土したのみである。灌漑排水事業に係る北トレンチでは、土坑4基、溝状遺構8条、ピットが検出された。遺構内からの出土遺物は少ないが、図化に勧えられる土器片を第54図にあげた。すべて土坑内出土の土器ですべて赤焼土器片である。1と3は腹片で、内外面に条線状の叩き、アテ痕が明瞭に残している。2は环形土器である。明僚にロクロ痕をのこし、器肉が厚い。底部は回転糸切りである。

その他包含層出土遺物は第55・56図に図化出来るものを示した。4は赤焼土器腹である。5・6は、中世陶器腹片と、擂鉢片である。腹は、外面の叩きが横位に、内面のアテ痕が縦位となる。擂鉢は、内面に11条を1単位とする単目が方射状に底部からひかれている。7は内面黒色化処理された环形土器である。8~10は須恵器腹片である。外面を格子目状叩き(8・10)と条線状叩き(9)、内面を青海波アテ痕(8・10)、条線状アテ(9)の土器である。

本遺跡の性格は集落跡として証明される建物跡等は検出されなかったが、土坑や溝状遺構等の生活様相を示すことから平安時代10~11世紀の集落跡と考える。

(4) 本川遺跡 (遺跡番号2067)

所 在 地 山形県酒田市大字本川49他

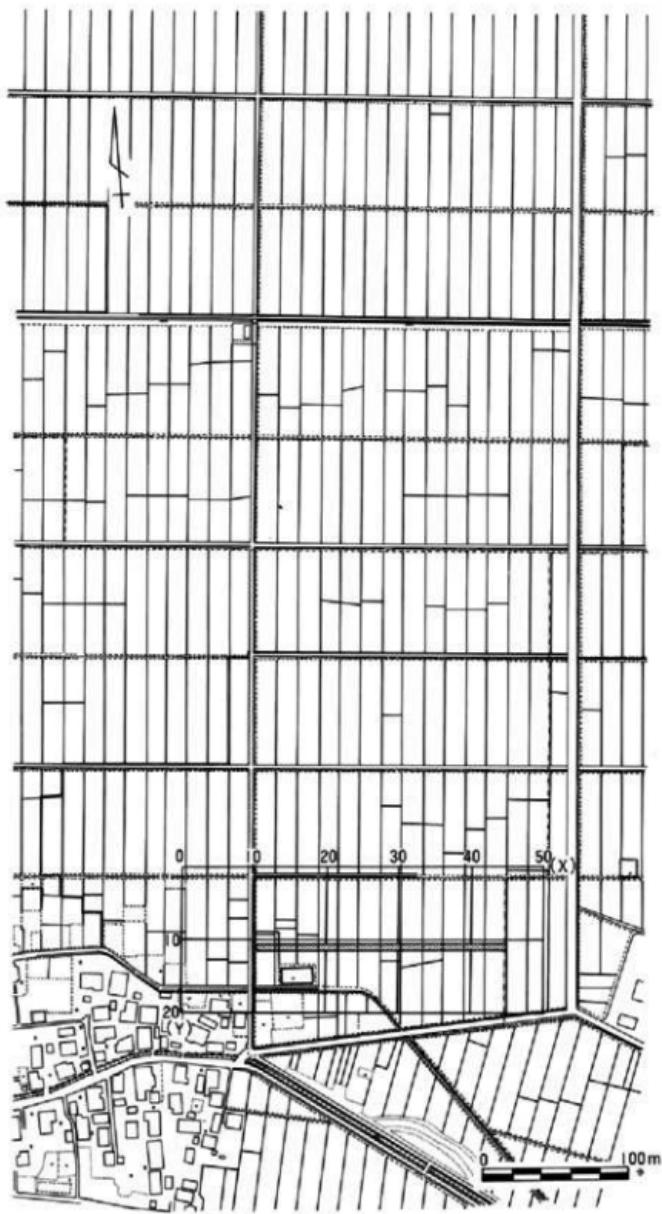
調 査 員 野尻 健

調査期日 昭和62年10月20~24日 (延5日間)

遺跡の概要 遺跡は、酒田市街地から南東6km、酒田市本川部落東側水田に立地する。手藏田6遺跡に南接して位置し、標高6.3~6.5mを測る。山形県埋蔵文化財包蔵地調査カードには、本川部落に存在する白山神社の東側畠地に土器片が多く散布すると記載され、今年度に実施された遺跡詳細分布調査によって遺跡範囲が更に北方へ広がる結果を得たものである。調査は、昭和62年度補正予算に併う県営は場整備事業が計画されたことにより、県農林水産部農地建設課より県教育委員会へ遺跡詳細分布調査依頼が提出され、これを受けた文化課では、昭和62年10月2・3日に分布調査を実施し、24ヵ所の試掘調査を行ない、20ヵ所より遺構、遺物の分布が認められた。この報告を受けた最上川右岸土地改良事務所では、は場計画の削平工法を検討し、現地表面下20cm以上の削平をしない工法を取り、は場計画が遺跡に影響をおよぼないこととした。このことにより、文化課では、事業における深掘りされる排水路を調査の対象とし、遺跡詳細分布調査によるC調査対応として実施することとした。



第54図 本川遺跡位置図 (S = 1 : 50,000)



第55図 本川遺跡概要図

調査は、遺跡南部に設置される計画排水路を実施することとし、計画の幅4m、長さ120mを重機で表土を除去し、遺構・遺物の検出作業から行なった。またトレンチの壁面を観察し、遺跡の基本層序を確認した。その結果層序は3層に分かれ、第Ⅰ層明褐色耕作土、第Ⅱ層暗青色粘質土、第Ⅲ層黒褐色粘質土、第Ⅳ層青灰色砂層となり、第Ⅳ層上面で、遺構の掘り込みが始まる。遺物は、第Ⅲ層に多く含まれ、第Ⅱ層でも若干の遺物が検出される。表土からⅣ層までの深さは25~30cmとなり、Ⅲ層の遺物包含層は厚さ10~15cmに堆積している。

面整理作業では、本川遺跡の東から西方へ向うにつれ、土括、溝状遺構、ピット等の遺構が次第に多く検出され、本川部落添いに本遺跡が広がる傾向を示している。

検出された遺構は、土括2基、井戸跡1基、溝状遺構1条、建物跡として組み合わさることが出来なかった柱穴多数が検出されている。

出土遺物は、包含層より、須恵器、赤焼土器、中世陶器等が検出されたが、遺構内からは細片のみの出土で、時期を断定出来るものはなかった。

土括はトレンチ東側で1基(SK1)、やや中央部で1基(SK8)で、平面形はほぼ円形を呈する。径約70cm、深さ35cmを測り、覆土は3層に分かれ、黒褐色粘質土を基調とした色を呈している。各層中には有機物粒子が多く含み、層中からは第59図3の須恵器破片が出土した。

溝状遺構(SD7)はトレンチ中央部、直行して検出された。幅1.5m、深さ50cmを測り、壁面はゆるやかに立ち上がり、底面は幅70cm位に平坦になる。覆土は1層で明青黒粘質土層となり、現水田の耕地整理以前の水路と考えられる。

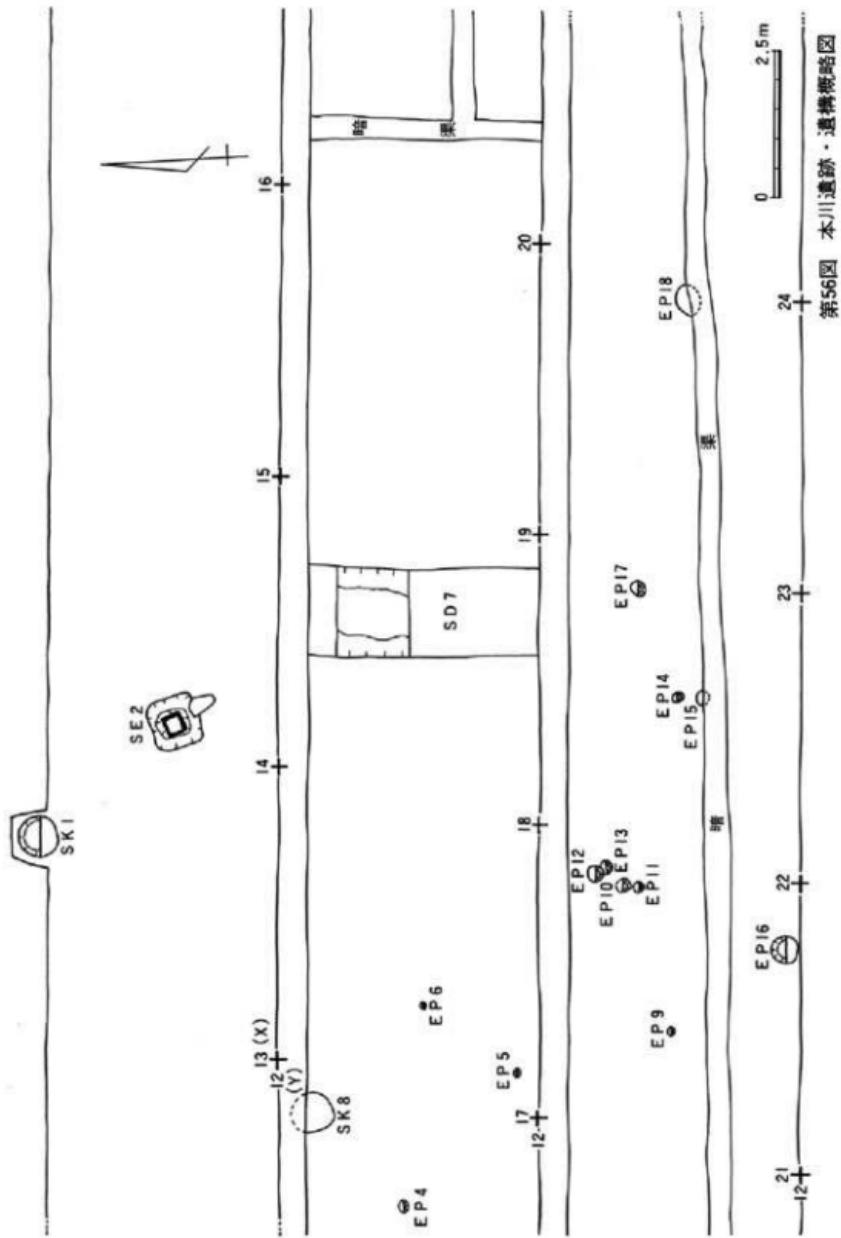
その他建物跡として組み合わされなかった柱穴は13個検出され、径20~40cm、深さ10~25cmを測る。これらは、トレンチ西半部に集中して検出されたが組み合わすことが出来なかった。

#### S E 2 井戸跡(第58図、図版55・56)

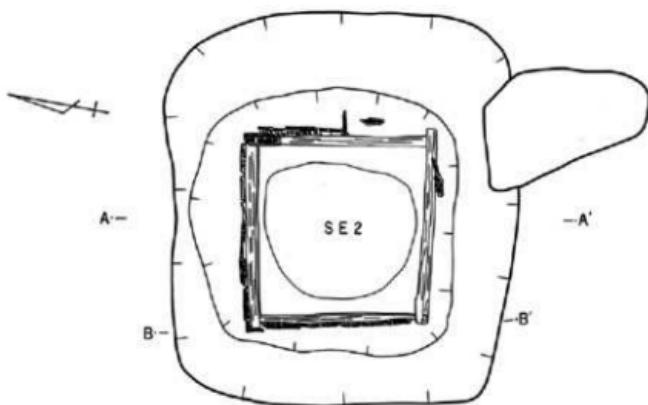
トレンチ東側、SK1土括より南西1m程離れた12-14グリッドⅣ層上面で検出された縦板、横樋を井戸構造にする井戸跡である。

掘り方は、東西135cm、南北120cmのやや東西に長い方形を呈している。断面形を観察すると、掘り込み面から約60cmまでは垂直に掘り込まれ、内側に約20cm程の段を作り、更に25cmの深さで帶水層を掘り込んでいる。この段を作る内側が井戸本体を備える部分となり、段より上部15cmには、横樋となる角材(一辺6cm)が一辺55cmにして方形に組み込まれている。横樋は、凹部と凸部と組み合せ、その外側には、一部の縦板が残されている。この横樋は構造上下位に備えつけられたものと考えられ、上部の横樋と上屋まで延びる縦板については、抜き取られたものと考えられる。

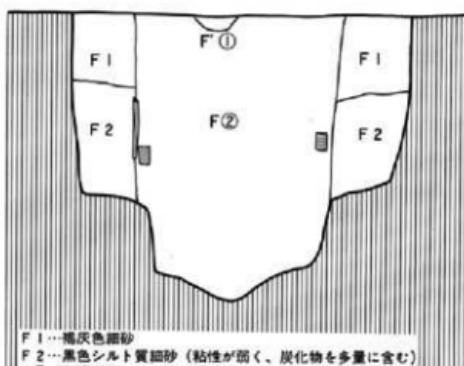
断面の層序は、井戸内部が2層に分けられ、F①層は、明緑灰色シルト質細砂で、F②



第56図 本川遺跡・遺構概略図



6.07m A A'



- F 1…褐色細砂
- F 2…黒色シルト質細砂（粘性が弱く、炭化物を多量に含む）
- F①…明瞭灰色シルト質細砂（2~3cm大の黒褐色細砂のブロックを含む）
- F②…明赤褐色砂質土（しまりが緩く、ざらめ状の粗砂）



0 50cm

第57図 本川遺跡 S E 2 井戸跡



図版49 S E 2 井戸跡断面

層は、明赤褐色砂質土となり、しまりが緩く、さらめ状の粗砂を呈することから本井戸跡が廃絶され、二次使用の井戸枠組を取り上げたのち一気に埋めもどされたものと考えられる。また掘り方の覆土は2層に分かれ、F1は、褐灰色細砂、F2は黒色シルト質細砂で黒褐色のブロックを含むことから、井戸枠組をおさえていたものと考えられる。井戸内部からは第59図1・2の須恵器甕片が出土している。

その他調査を進めている段階で、地元の人から63年度に計画されている事業区域内に、柱根が存在しているとの情報があり、現地へ向ったところ、現排水路中に径45cmの柱根と思われる木材が出土しており、周囲を10cm程掘り下げたところ、木材は丁寧に面取りされており、柱根であると断定した。本遺跡が更に北方へ広がる様相を示していることから本遺跡の範囲拡大と考え、次年度調査区域の中に含める地域となる。

**出土遺物** 今回の調査で出土した遺物は、整理箱にして2箱程である。また整理箱に収納されない遺物は、井戸枠組として横棟4本、縦板材8枚である。その他の遺物としては古銭、金属製品が出土した。土器の種別では、須恵器、赤焼土器、中世陶器片がある。器種では、甕・壺・蓋である。第59図には、調査で出土した遺物の中で、測図復元できる土器やその他の遺物を図化したものであり、本遺跡の性格や、時期を示す一部の遺物を提載した。

1・2はS E 2 井戸跡出土である。1は中世陶器甕片である。外面に横位の条線状叩き内面は円形のアテ痕を呈する。胎土に粗砂を含み、焼成は堅い。珠洲系陶器である。2は須恵器甕片である。外面は、ハケ調整後格子目状叩き、内面には横位の条線状アテ痕である。胎土中に砂粒を含み、焼成時による膨張痕が判る。その他S E 2 井戸跡内F②層中からは図示出来なかつたが、赤焼土器甕片が出土している。

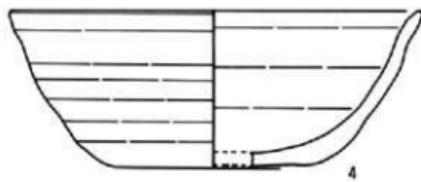
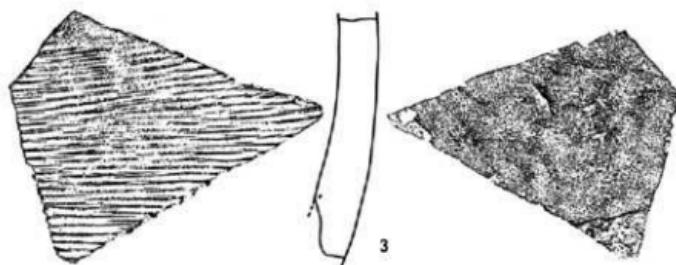
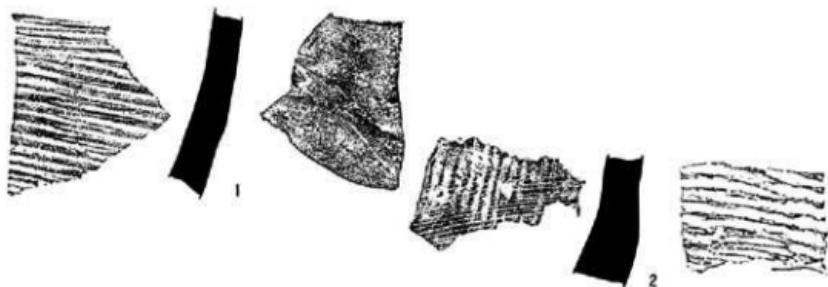
3はSK 1 土坑内より出土した中世陶器甕片である。外面に横位の条線状叩き、内面は円形のアテ痕を呈する。胎土中には小礫を含み、やや緻密である。焼成は堅い。珠洲系陶器である。

4～6は包含層出土の土器である。4は赤焼土器壺である。器面に明瞭なロクロ痕を残し、底部は少し上げ底となる。底部から体部にかけてゆるやかな丸味をもちながら立ち上る。時期は、平安時代後半から中世に推測される。



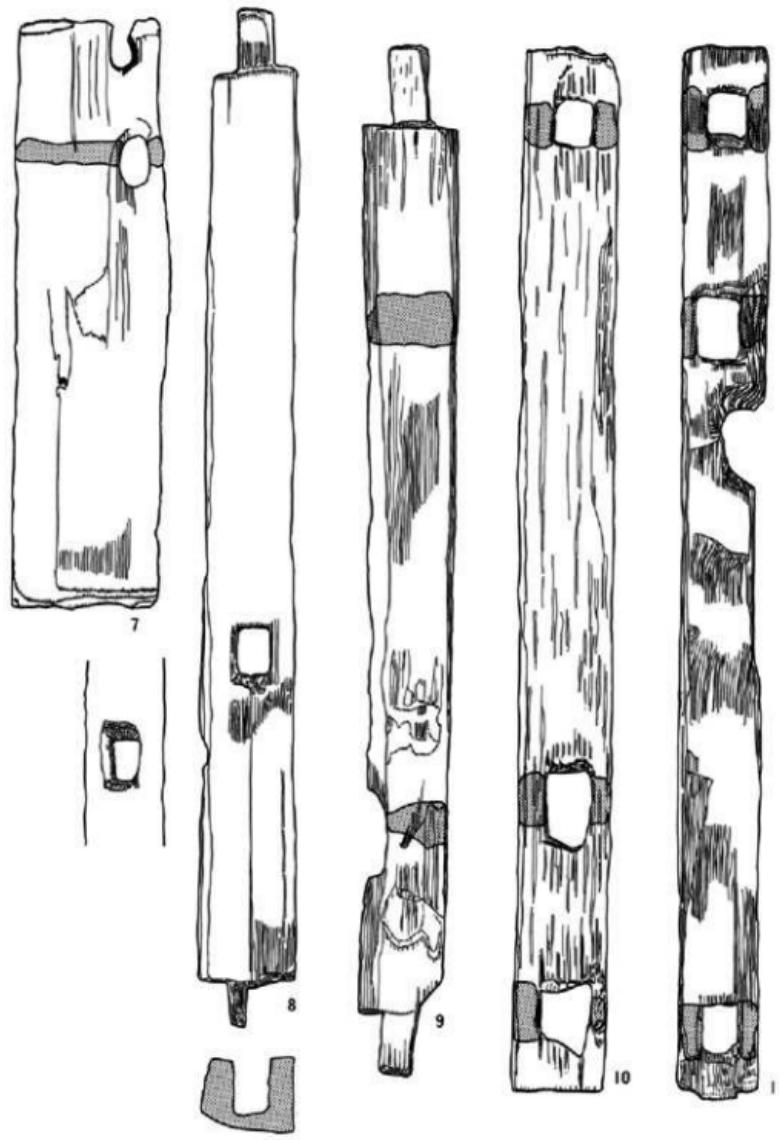
本川遺跡近景（東から）

図版50 本川遺跡近景（東から）



0 5cm

第58図 本川遺跡出土遺物



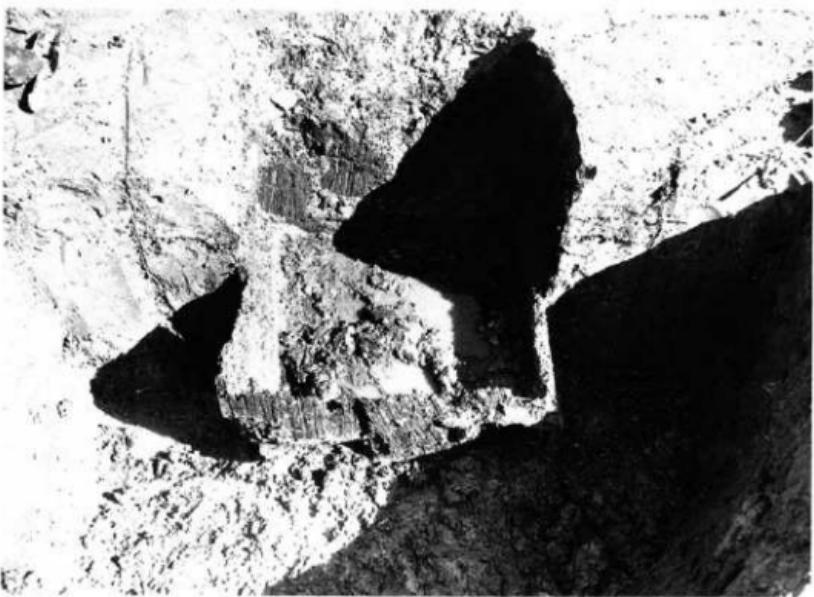
第59図 本川遺跡井戸枠



トレンチ調査風景



トレンチ全景（西から）



S E 2 井戸跡



S E 2 井戸枠横様

図版52 本川遺跡



井戸底面近景



同 拡大



図版54 本川遺跡出土土器 S.E.2 井戸枠

### III まとめ

昭和62年度遺跡詳細分布調査は、昭和63年度以降実施予定の農林・土木事業他関係遺跡及び埋蔵文化財包蔵地基礎調査について実施したものである。

調査遺跡数は74ヶ所を数え、うち5遺跡が今年度新規確認である。調査方法別では、A調査44ヶ所・B調査46ヶ所・C調査7ヶ所・立会調査12ヶ所である。調査遺跡の中で『山形県遺跡地図』記載位置の訂正を必要とするものについては、第II章遺跡地名表備考欄及び遺跡位置図中に明示した。

各遺跡の中で、昭和63年度の農林・土木事業に係る遺跡は、次のとおりである。

#### (1) 農林事業関係

前田遺跡・大橋遺跡・下長橋遺跡・水尻遺跡・浮橋遺跡・小深田遺跡・横代遺跡  
・熊野田遺跡・手蔵田3遺跡・大根新田遺跡・荻島遺跡・手蔵田4遺跡・手蔵田5遺跡  
・手蔵田6遺跡・手蔵田8遺跡・手蔵田9遺跡・本川遺跡・助作遺跡・山田遺跡  
・玉野原A遺跡・玉野原B遺跡・早房A遺跡・早房B遺跡・早房C遺跡  
・柳沢条里遺跡

#### (2) 土木事業関係

助作遺跡・寝鹿遺跡・下長橋遺跡・前田遺跡・大豆田下遺跡

以上の各遺跡については、今後関係機関と協議を必要とするものである。

埋蔵文化財包蔵地基礎調査は、今年度は寒河江市・長井市について実施したが、遺跡の現状確認及び新規遺跡の確認等、埋蔵文化財保護を進める上で、今後も県内各地区を対象に調査を必要とするものである。

最後に、分布調査の実施にあたってご協力をいただいた関係市町教育委員会、並びに関係開発機関に心から感謝を申し上げる。

山形県埋蔵文化財調査報告書 第119集  
分布調査報告書 (15)

昭和63年度以降農林・土木事業他関係遺跡

B 調査実施遺跡

C 調査実施遺跡

昭和63年3月19日 印刷

昭和63年3月20日 発行

発行 山形県教育委員会

印刷 山形印刷株式会社